

講義科目名称： 芸術概論

授業コード： L037

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
成瀬 翔			
科目ナンバリング：1L105S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	基礎科目		
授業のテーマ	西洋音楽史		
授業の達成目標	西洋音楽の「制度」を相対化することができる。		
授業科目の概要	わたしたちは、西洋音楽（クラシック音楽）を生活のなかに取り込み、それを「当たり前」のものだと考えています。たとえば、年末にベートーヴェンの第9がテレビで放送されていたり、喫茶店でショパンのピアノ曲が流れていたとしても、わたしたちはほとんど違和感をもつことがないでしょう。 しかし、ベートーヴェンやショパンは19世紀に活躍した作曲家で、当時の日本は江戸時代でした。なぜ、わたしたちは江戸時代の音楽を「当たり前」のものとして受け入れ、それに違和感をもたないのでしょうか？ ここには西洋音楽の「制度」という深い問題が隠されています。この授業では、西洋音楽の歴史を通じて、わたしたちの「当たり前」をかたち作っている「制度」を考えていきたいと思います。		
授業計画	第1回	授業内容 ガイダンス：なぜ西洋音楽史を学ぶのだろう？	
	第2回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 中世音楽：グレゴリオ聖歌とポリフォニーの誕生	
	第3回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 ルネサンス：音楽の「美」と「醜」の発見	
	第4回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 バロック（1）：「わかりやすさ」と「わかりにくさ」	
	第5回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 バロック（2）：「わかりやすさ」と「わかりにくさ」	
	第6回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 古典派（1）：貴族のための音楽、市民のための音楽	
	第7回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 古典派（2）：啓蒙のユートピア	
	第8回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 ロマン派（1）：「個性」と「平均化」の時代	
	第9回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 ロマン派（2）：「感動」の誕生	
	第10回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 世紀末と近代：西洋音楽の黄昏？	
	第11回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 20世紀（1）：ロマン派からの決別	
	第12回	授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 20世紀（2）：必然性と偶然性 授業時間外の学習：配布資料を復習する。	

	第13回 授業内容 20世紀（3）：政治と音楽 第14回 授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 現代：日本の音楽 第15回 授業時間外の学習：配布資料を復習する。 授業内容 まとめ：（再び）なぜ西洋音楽史を学ぶのだろうか？ 授業時間外の学習：配布資料を復習する。
授業時間外の学習	配布資料の復習（2時間/週）、次週の予習・課題へのとりくみ（2時間/週）
テキスト	使用しませんが、下記の参考書をおすすめいたします。
参考書・参考資料等	岡田暁生『西洋音楽史——「クラシック」の黄昏』（中公新書） 沼野雄司『現代音楽史——闘争しつづける芸術のゆくえ』（中公新書）
履修上の注意	毎回の授業では、コメントシートに質問や感想、思いついたことを何でも自由に記入してください。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点（コメントシート）20%、期末試験80%
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で前回の質問に対する回答プリントを配布します。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	西洋芸術音楽に関する知識、技法、創作態度を修得する。

講義科目名称： 日本美術史A

授業コード： L131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
山口 由香			
科目ナンバリング：1L301S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	日本古代中世美術の流れ
授業の達成目標	日本の古代美術作品と中世水墨画作品を通して、日本美術作品理解の方法を修得する。 と同時に日本美術における中国美術の受容から変容への展開を理解する。
授業科目の概要	日本古代美術は、縄文時代に培われた造形意識や造形感覚を基に、半島を経由して到来した中国の高度な造形作品とその造形意識に触発されて 新たな作域や技法による作品制作へと展開する。やがて、それらは日本的な感性に沿った作品へと変容していく。また、日本中世美術に特筆すべき絵画ジャンルである“水墨画”は、その起源を中国に持ち、貿易品の“唐物”の一つとして日本へ請来され、禅宗という宗教空間を通して実践されるという複雑な受容があった。 本講義では平安時代までの日本古代の代表的な作品を取り上げてその特徴を造形的な要素から解説し、造形意図を考察していく。続いて、“水墨画”の中国での発生と展開を確認した上で、日本での受容から変容への展開の様相を 日本中世の代表的な水墨画作品を取り上げてその特徴を造形的な要素の解説とその制作者の特性を通じた考察を講義する。
授業計画	第1回 授業内容 日本美術全体の包括的な展開、縄文土器の造形性 第2回 授業内容 飛鳥彫刻・白鳳彫刻 第3回 授業内容 天平前期・後期彫刻 第4回 授業内容 天平前期・後期絵画 第5回 授業内容 平安前期美術 第6回 授業内容 平安後期美術 1 第7回 授業内容 平安後期美術 2 第8回 授業内容 鎌倉時代初期彫刻 第9回 授業内容 鎌倉時代の伝統的な絵画の状況 第10回 授業内容 中国の水墨画と12・13世紀初日本の水墨画受容 第11回 授業内容 14世紀前半の日本水墨画 第12回 授業内容 14世紀後半の日本水墨画 第13回 授業内容 15世紀前半日本の水墨画変容 第14回 授業内容 15世紀後半日本で制作された水墨画 第15回 授業内容 テスト 出席必須 配布資料を確認する
授業時間外の学習	事前に配布資料に目を通し、教科書で作品概要を把握 事後に講義中に指定した美術作品をプリントに鉛筆でスケッチする
テキスト	カラー版『日本美術史』辻惟雄監修 資料配布
参考書・参考資料等	『岩波日本美術の流れ』6世紀までの美術、7—9世紀の美術、10—13世紀の美術、14—16世紀、岩波書店 『日本美術全集』講談社・学研、『名宝日本の美術』小学館など大型書籍

履修上の注意	ノートに毎回記入したことが評価試験時の重要な参考資料になる 毎回配布プリントに講義時指定された作品を鉛筆でスケッチする。 毎回出席が基本であるが、止むを得ず欠席の場合は該当講義のスケッチを後日補充することが必要である。 スケッチはまとめて指定された時に提出する。 欠席が開講回数の3分の1以上（6回）の場合は評価対象外となる
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	毎回の作品のスケッチ（40%）、 123を問う筆記試験（50%） 出席（10%） 以上を総合して評価する。 1. 作品の特徴（モチーフ・色彩・構成・造形意図など）の理解 2. 美術史的な展開の特性の理解 3. 制作者の表現特性の理解
課題に対するフィードバックの方法	提出されたスケッチやテストを返却する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	専門分野における発想や表現の基本的な能力を獲得できているか

講義科目名称： 日本美術史B

授業コード： L132

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
山口 由香			
科目ナンバリング：1L302S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	日本近世近代美術の展開
授業の達成目標	日本近世・近代の画家たちの作品の理解と、日本近世近代絵画の展開の様相を理解する。 絵画作品見方と理解方法の修得を目標にする。さらに、この学習を通して美術に対する興味を生じ、展覧会などに足を運べるようになることを希望する
授業科目の概要	桃山のダイナミックな表現は狩野永徳という個人の様式に代表される。彼は狩野派という大集団の統領として自派の様式を統一するだけでなく、桃山時代という彼の生きた時代をも彼の様式一色に染め上げた。続く次期リーダー探幽は狩野派が江戸時代全期を生き延びる様式と組織を作った。「絵画を学ぶのはまず狩野派から」ということが江戸全般に言われていたが、その内実、狩野派の様式は幕府とその周辺の武家階層に生き延びただけで、新しい絵画的なエネルギーによる制作がなかった。しかし、狩野派を出発点としながら多くの画家たちが新しい様式を作り上げ、実験的な制作を行った。江戸時代は上方や江戸の文化圏にとどまらず、地方の絵画も誕生した。こうした状況の近世絵画の展開を、時間軸に沿って画家ごとに作品を通して考察する。 さらに、江戸時代後半に解禁になった西洋書物、特にオランダの書物の挿絵を通して絵画の写実的表現に見開かれた目は、西洋絵画技法を科学と考えてその技法の修得を目指した。書物からの学習でなかなか成果が上がらなかったが、開国後、西洋人からの直接指導や西洋の国々への留学学習から、絵画に対して単なる技法を超えた芸術表現の問題へと画家の意識が発展していった。一方、伝統的な日本美術の価値に気付いた人々が新しい日本画を模索し創作していった。絶え間ない海外からの新しい芸術運動の情報に晒されながら、自らの芸術の形を求めて作品を創作していった明治の画家たちの様相を、作品を中心に時代背景や芸術運動との関わりにも言及しながら講義する。
授業計画	第1回 授業内容 桃山絵画成立 ―永徳までの狩野派 第2回 授業内容 桃山後期絵画 ―等伯・友松 第3回 授業内容 17世紀初期絵画① 琳派―宗達 第4回 授業内容 17世紀初期絵画② 江戸絵画のもと―狩野探幽 第5回 授業内容 17世紀後期絵画 浮世絵―又兵衛・師宣 第6回 授業内容 18世紀初期絵画 琳派―光琳 第7回 授業内容 18世紀後半京の絵画① ―大雅・蕪村 第8回 授業内容 18世紀後半京の絵画② 写生派絵画―応挙・若冲 第9回 授業内容 18世紀後半浮世絵―春信・歌麿 第10回 授業内容 18世紀江戸時代洋風絵画：秋田蘭画・司馬江漢 第11回 授業内容 19世紀幕末の江戸絵画① 浮世絵―北斎・広重・国芳 第12回 授業内容 19世紀幕末の江戸絵画② 江戸琳派―抱一・其一 第13回 授業内容 明治初年から10年ごろの洋風絵画の高橋由一と明治20年ごろの明治美術会の浅井忠 さらに新しい洋画(黒田清輝・青木繁)への展開

	第14回 授業内容 日本画の誕生前夜：狩野芳崖（岡倉天心・フェノロサ）から東京美術学校：菱田春草・横山大観へ 京都の日本画：竹内栖鳳と村上華岳たち 第15回 授業内容 テスト 出席必須 事前に配布資料を確認しておく
授業時間外の学習	事前に配布資料に目を通し、参考書籍で作品概要を把握 事後に講義中に指定した美術作品をプリントに鉛筆でスケッチする
テキスト	カラー版『日本美術史』辻惟雄監修 資料配布
参考書・参考資料等	『岩波日本美術の流れ』15—16世紀 17—18世紀 19—20世紀 岩波書店 『日本美術全集』講談社・学研、『名宝日本の美術』『原色日本美術』『原色日本現代美術』小学館 など大型書籍
履修上の注意	ノートに毎回記入したことが評価試験時の重要な参考資料になる 毎回配布プリントに講義時指定された作品を鉛筆でスケッチする。 毎回出席が基本であるが、止むを得ず欠席の場合は該当講義のスケッチを後日補充することが必要である。 スケッチはまとめて指定された時に提出する。 欠席が開講回数の3分の1以上（6回）の場合は評価対象外となる
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	毎回提出するプリントのスケッチ(40%) 1. 2. 3を問う筆記試験（50%） 1. 作品の特徴（モチーフ・色彩・構成・造形意図など）の理解 2. 美術史的な展開の特性の理解 3. 制作者の表現特性の理解 出席(10%) 以上を総合して評価する。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたスケッチやテストを返却する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	専門分野における発想や表現の基本的な能力を獲得できているか

講義科目名称： 西洋美術史A

授業コード： L117

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
小野 康子			
科目ナンバリング：1L303S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	古代からルネサンスまでの西洋美術史の概説
授業の達成目標	1. 西洋美術の展開について、基礎的な知識を身につけ、説明することができる。 2. 西洋美術史における重要な芸術家とその実践について論じることができる。 3. 美術の社会的・歴史的意義について理解し、指摘することができる。 4. 講義で得た知識をもとに、任意の美術作品を自分の言葉で説明できるようになる。
授業科目の概要	この授業では、古代からルネサンスまでの美術の流れを概観する。西洋美術が歴史の中でどのような主題をいかに表現してきたのか、また結果として作品にどのような意味や役割が与えられていたのかについて、各時代の社会的・歴史的背景を考慮しながら辿っていく。ルネサンス以降については、時代を代表する芸術家に注目し、絵画を中心に作例を取り上げ、その時代の芸術様式や画家や注文主の意図などがどのように実践されているのか、具体的に見ていく。
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要、成績評価方法等について説明する。導入として、なぜ過去美術を学ぶのかについて考える。 授業時間外の学習：過去美術を学ぶことの意義について考える。 第2回 古代エジプト文明、メソポタミア文明 西洋文明の祖先である古代エジプトおよびメソポタミア文明について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第3回 エーゲ文明と古代ギリシア 西洋美術の基礎となったエーゲ文明および古代ギリシアの芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第4回 エトルリアと古代ローマ エトルリアから古代ローマの芸術について、建築・彫刻を中心に学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第5回 初期キリスト教美術、ビザンティン美術 キリスト教公認以降、急速に進んだキリスト教美術の役割や偶像崇拜問題について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第6回 ロマネスク美術 10世紀後半以降のロマネスク時代のキリスト教美術について、建築・彫刻・絵画を中心に学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第7回 ゴシック美術 11世紀後半以降のゴシック時代のキリスト教美術について、建築・彫刻・絵画を中心に学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第8回 プロト・ルネサンス 13-14世紀のイタリアにおける、フィレンツェ派とシエナ派の芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第9回 初期ルネサンス（マザッチョ、ボッティチェリ） ルネサンス美術に必要な3要素の確立や、神話主題の復活について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第10回 初期ネーデルラント（ファン・エイク、ボス） イタリア以北の地域におけるルネサンス美術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第11回 盛期ルネサンス（レオナルド・ダ・ヴィンチ） 盛期ルネサンスを代表するダ・ヴィンチの芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：ダ・ヴィンチについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第12回 盛期ルネサンス（ミケランジェロ） 盛期ルネサンスを代表するミケランジェロの芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第13回 盛期ルネサンス（ラファエロ） 盛期ルネサンスを代表するラファエロの芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第14回 16世紀北イタリアの美術 16世紀のヴェネツィア派の芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。 第15回 北方ルネサンス（ブルューゲル、デューラー） 16世紀の北方地域の美術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。

授業時間外の学習	授業前：各回のキーワードについて「コトバンク」等で調べておくこと。 授業後：配布資料を復習し、専門用語や授業で扱った作品について再度調べ、ノートにまとめておくこと。また、関連する展覧会等に進んで出かけること。
テキスト	特に使用しない。
参考書・参考資料等	『西洋美術史 美術出版ライブラリー 歴史編』をはじめ、西洋美術史の概説書をどれか一冊手元に置いておく とよい。初回授業時に推薦書を指示する。
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席とみなす。6回以上の欠席で失格。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点30%、筆記試験70%（レポートの場合も有り）
課題に対するフィードバックの方法	質問に基づき、次週にコメントする。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	選択科目ですが、美術やデザイン等には必要な基礎知識です。

講義科目名称： 西洋美術史 B

授業コード： L118

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
小野 康子			
科目ナンバリング：1L304S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	16世紀から19世紀までの西洋美術史の概説		
授業の達成目標	1. 西洋美術の展開について、基礎的な知識を身につけ、説明することができる。 2. 西洋美術史における重要な芸術家とその実践について論じることができる。 3. 美術の社会的・歴史的意義について理解し、指摘することができる。 4. 講義で得た知識をもとに、任意の美術作品を自分の言葉で説明できるようになる。		
授業科目の概要	この授業では、16世紀から19世紀までの美術の流れを概観する。西洋美術が歴史の中でどのような主題をいかに表現してきたのか、また結果として作品にどのような意味や役割が与えられていたのかについて、各時代の社会的・歴史的背景を考慮しながら辿っていく。毎回その時代を代表する芸術家に注目し、絵画を中心に作例を取り上げ、その時代の芸術様式や画家や注文主の意図などがどのように実践されているのか、具体的に見ていく。とりわけ19世紀以降の美術については、時代の急激な変化とメディアの発達を背景に、いかに美術が伝統から逸脱し、変遷していったかについて学んでいく。		
授業計画	第1回	マニエリスム 1520年以降のイタリアに登場したマニエリスムの美術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第2回	イタリア・バロック（カラヴァッジョ、ベルニーニ） 17世紀のイタリアで展開したバロック美術と宗教改革の関係について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第3回	17世紀オランダ美術（ハルス、レンブラント、フェルメール） 17世紀に大きく発展を遂げたオランダの美術について学ぶ。新たに登場した絵画ジャンルについて紹介する。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第4回	17世紀フランドル、スペイン美術（ルーベンス、ベラスケス） 17世紀におけるフランドルとスペインの美術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第5回	17世紀フランス美術（ラ・トゥール、ブッサン） 17世紀におけるフランスの美術について学ぶ。また、王立絵画・彫刻アカデミーの役割について紹介する。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第6回	ロココ美術（ヴァトール、フラゴナール） 18世紀のフランスのロココ美術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第7回	新古典主義（ダヴィッド、アングル） 18-19世紀のフランス革命期の美術およびアカデミズムについて学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第8回	ロマン主義（ジェリコー、ドラクロワ） 19世紀のフランスにおけるロマン主義の美術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第9回	バルビゾン派、写実主義（ミレー、クールベ） 19世紀フランスにおける風景画の意味と、ありのままを描いた写実主義絵画について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第10回	マネの芸術 近代絵画の父と呼ばれるマネが実践した美術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第11回	印象派（モネ、ルノワール） 印象派を代表するモネとルノワールを通じて、印象派の芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：ダ・ヴィンチについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第12回	新印象派、ポスト印象派（スーラ、セザンヌ） 印象派を経験し、それを乗り越えていったスーラとセザンヌの芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第13回	ポスト印象派（ゴッホ、ゴーギャン） 印象派を経験し、それを乗り越えていったゴッホとゴーギャンの芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第14回	ポスター芸術 リトグラフの登場により大きく発達したポスター芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。	
	第15回	象徴主義（モロー、ルドン）	

	神秘体験や内的感覚を視覚化した象徴主義の芸術について学ぶ。 授業時間外の学習：キーワードについて調べておく。授業内容をノートにまとめておく。
授業時間外の学習	授業前：：各回のキーワードについて「コトバンク」等で調べておくこと。 授業後：配布資料を復習し、専門用語や授業で扱った作品について再度調べ、ノートにまとめておくこと。また、関連する展覧会等に進んで出かけること。
テキスト	特に使用しない。
参考書・参考資料等	『西洋美術史 美術出版ライブラリー 歴史編』をはじめ、西洋美術史の概説書をどれか一冊手元に置いておく とよい。初回授業時に推薦書を指示する。
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席とみなす。6回以上の欠席で失格。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点30%、筆記試験70%（レポートの場合もあり）
課題に対するフィードバックの方法	質問に基づき、次週にコメントする。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	選択科目ですが、美術やデザイン等には必要な基礎知識です。

講義科目名称： 東洋美術史

授業コード： L129

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
上原 永子			
科目ナンバリング：2L309S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	ガンダーラ、インドの仏教美術史概説		
授業の達成目標	1. 仏像に関する基本的な知識を身につける。 2. ガンダーラやインドにおける、文化と美術表現の関係を理解する。		
授業科目の概要	ガンダーラおよびインドの仏教美術史を概観する。特にガンダーラに重点を置き、異文化交流が仏教美術にもたらした影響を理解する。本講義は仏教美術の入門ではあるが、文化交流の具体的な事例など概説よりも一歩進んだ内容も適宜扱い、時代・地域ごとに仏教美術の背景にある文化や思想と表現との関連についての理解を深める。		
授業計画	第1回	ガイダンス 授業の進め方、成績評価方法について説明すると共に質問を受け付ける。また導入として様々な仏像の画像を参照し、自分が気付いたことを口頭で述べることに挑戦してもらう。 授業時間外の学習：予習は必要ない。授業の進め方や成績評価などについて各自確認すること。	
	第2回	無仏像時代1：パールフット 仏像が存在しなかった時代に、仏教美術がどのような表現をしていたかを紹介する。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第3回	無仏像時代2：ボードガヤ、サーンチー 仏像が存在しなかった時代に、仏教美術がどのような表現をしていたかを紹介する。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第4回	ガンダーラ1：仏像創始 仏像が制作されるようになった背景や、仏像の基本的な知識を学ぶ。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第5回	ガンダーラ2：仏伝図1 仏陀の生涯が、どのように美術に表現されているかを学ぶ。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第6回	ガンダーラ3：仏伝図2 仏陀の生涯が、どのように美術に表現されているかを学ぶ。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第7回	ガンダーラ4：異文化交流 ガンダーラの仏教美術に取り入れられた異文化をたどる。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第8回	クシャー朝時代マトゥラー ガンダーラと同時代にインドのマトゥラーではどのような仏教美術が展開していたかを学び、ガンダーラとの差異を確認する。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第9回	南インド 南インドの仏教美術を学び、これまでに学んだ各地の美術表現との共通点・相違点を確認する。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第10回	グプタ朝時代 グプタ朝時代の仏教美術を学び、それ以前の時代の仏教美術との差異を確認する。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第11回	前期石窟 西インドの前期石窟について学ぶ。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第12回	後期石窟 西インドの後期石窟について、特にアジャンター壁画を中心に学ぶ。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。	
	第13回	パーラ・セーナ朝時代	

	第14回 パーラ・セーナ朝時代の仏教美術について、密教との関わりを中心に学ぶ。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。 中央アジア アフガニスタン～新疆ウイグル自治区にかけての中央アジアの仏教美術について、地域間の交流に留意しつつ学ぶ。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。 第15回 仏教美術の東漸 インドから日本までの仏教美術の伝播を具体例を取り上げて紹介し、美術の伝播と文化的背景の関わりを学ぶ。 授業時間外の学習：予習は必要ない。ただし、授業時に提示したポイントを中心とした復習をすること。
授業時間外の学習	予習は必要ないが、毎回の復習を週30分～1時間程度行うことを求める。
テキスト	使用しない。毎回資料を配布する。
参考書・参考資料等	以下の参考図書はいずれも高額なため、図書館での閲覧を前提とする。 肥塚隆／宮治昭（編）『世界美術大全集 東洋編1 3 インド（1）』小学館。 肥塚隆／宮治昭（編）『世界美術大全集 東洋編1 4 インド（2）』小学館。 田辺勝美／前田耕作（編）『世界美術大全集 東洋編1 5 中央アジア』小学館。
履修上の注意	積極的に博物館や寺院へ赴き、実際に仏像を拝観する機会を持つことが望ましい。 また、受講にあたっては私語や飲食をしないなどの基本的なマナーが当然求められる。受講態度が目に残る場合は減点の対象とする。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	毎回、指名して質疑応答を課す。これに受講態度を加味して平常点（10%）、不定期に課す小テスト（30%）、期末試験（60%）の合計で評価する。なお、受講人数によっては平常点（20%）・小テスト（20%）に変更する場合がある。
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケート結果にコメントを入れる。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	グローバルに活躍し、多様性の中で他者を尊重するための異文化理解の力を養う。

講義科目名称： 映像論

授業コード： L100

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	選択
担当教員			
村田 仁			
科目ナンバリング：3L314S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	映像とは何か。		
授業の達成目標	映像文化の多様性を知り、今日の映像のあり方について考える。受講生それぞれの「映像論」を書く。		
授業科目の概要	今日の社会に欠かせないものとなった「映像」を、様々にザッピング鑑賞していく講義です。全15回のうち、映像の歴史から、映像の表現が社会に与える影響、社会が映像に与える関係を事例をもって考えます。毎回、授業の終わりには コメントシートを提出して頂きます。短い文章で良いので、授業の感想や、気になった映像についてなどを記してください。コメントは次回のはじめに取り上げて紹介し、論考を深めます。		
授業計画	第1回	授業内容 授業の概要、講師の紹介（全15回のながれ） 「映像で“会う”時代」	
	第2回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 映像のはじまりは「映画」のはじまりである。映画史。	
	第3回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「テレビ」以前、以後。	
	第4回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「インターネット」は映像だ。	
	第5回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「アニメーション」は日本の宝か？	
	第6回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「ビデオゲーム」という魔法。	
	第7回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「CM」広告が映像と出会うこと。	
	第8回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「ミュージックビデオ」を研究する。	
	第9回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「ドキュメンタリー」という奇跡。	
	第10回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「CG、特撮」空想世界を撮影する！	
	第11回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「デザイン」に生きる映像。機能する映像。	
	第12回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容 「芸術」分野での映像作品、実験的なものを中心に。	
	第13回	授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 授業内容	

	「文学」と映像。鉛筆をカメラに変えた詩人たち。 授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 第14回 授業内容 「現代美術」と映像。映像インスタレーションの可能性。 授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。 第15回 授業内容 全体のまとめ「今日の映像」 「映像で“会う”時代」 授業時間外の学習：授業内で紹介した資料を読む。紹介した映像作品を鑑賞する。
授業時間外の学習	授業時間内に紹介した映像を鑑賞する。授業のホームページ、配布プリントを閲覧する。紹介した書籍、資料を読む。
テキスト	授業中、ホームページにてにその都度、紹介します。
参考書・参考資料等	授業中、ホームページにてにその都度、紹介します。
履修上の注意	課題提出は必須。締め切りは厳守すること。出席日数も規定分は必須です。コメントシートも評価します。講義の進捗、受講者の関心などを受け、授業計画を変更することもあります。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	方法：課題提出、レポート「私の映像論」 基準：レポート 30%、コメントシート 50%、授業態度 20%
課題に対するフィードバックの方法	レポート講評の公開。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	通常の単位となります。

講義科目名称： 現代美術の展開A(戦後～00年代の主要美術動 授業コード： L107
向)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
山本 さつき			
科目ナンバリング：2L312S	美術展企画、美術批評	授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	戦後～00年代の主要美術動向
授業の達成目標	今日における美術表現のベースとなるような戦後～00年代の美術動向について理解を深め、受講者自身の思考、視座をもつことを目標とする。
授業科目の概要	視覚教材を併用し、今日の現代美術表現に影響を強く与えた戦後～00年代の主要美術動向について、その前提、背景、思想などを含めて観察・分析していく。単元のまとまりごとにテストを実施して理解度を確認し、次単元に繋がる基礎知識や思考を押さえていく。
授業計画	第1回 ガイダンス、および導入 授業時間外の学習：授業最後の質問を再度考えまとめる。 第2回 今日の作品と歴史的作品との比較 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。抽象表現主義の作品を概覧してくる。 第3回 モダン…フォーマリズム批評と抽象表現主義 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。次週確認テストのためのまとめ学習。 第4回 モダン…フォーマリズム批評とその他の動向 ●小テスト実施日 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。ミニマル・アートの作品を概覧してくる。 第5回 モダン…コンセプチュアル・アート 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。次週確認テストのためのまとめ学習。 第6回 モダン…ミニマル・アート 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。コンセプチュアル・アートの作品を概覧してくる。 第7回 まとめ…モダンの特質とポスト・モダンの特質 ●小テスト実施日 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。ポップ・アートの作品を概覧してくる。 第8回 ポップ・カルチャーと美術…ポップ・アートなど 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。授業内の質問について再度考えておく。 第9回 ポスト・モダン…引用／流用(1)：美術における模倣と記号の変質 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。アプロプリエーション・アートの作品を概覧してくる。 第10回 ポスト・モダン…引用／流用(2)：流用の手法 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。次週確認テストのためのまとめ学習。 第11回 ポスト・モダン…引用／流用(3)：アプロプリエーション・アート ●小テスト実施日 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。ニューペインティングの作品を概覧してくる。 第12回 ポスト・モダン…ニュー・ペインティングなど 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。アース・ワークの作品を概覧してくる。 第13回 「もの」から「こと」へ(1)：アース・ワークなど 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。インスタレーション作品を概覧してくる。 第14回 「もの」から「こと」へ(2)：インスタレーションなど 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。次週確認テストのためのまとめ学習。 第15回 「もの」から「こと」へ(3)：パフォーマンス、ボディ・アートなど ●小テスト実施日 授業時間外の学習：配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。実際に現代美術作品に触れる機会を設け、現代美術に対する知識の深まりを確認する。

授業時間外の学習	次回授業で扱う美術動向についての予習復習や、授業内容について関心のある点、不明点のまとめ、また確認テストのためのまとめ学習。詳しくは授業計画を参照のこと。
テキスト	使用しない。各講義ごとに資料を配布。
参考書・参考資料等	必要に応じて指示する。
履修上の注意	現代美術に関心をもつ者の受講を求める。美術館やギャラリーなどを訪ね、積極的に現代の美術表現に触れること。遅刻や授業中の離席・私語など、授業妨害にあたる行為には厳正に処する。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点30%（授業内のクイズ、不定期に実施するアンケートの内容も参照する） 授業内の確認テスト（全4回の平均点）70%
課題に対するフィードバックの方法	授業内のクイズ、小テストの得点を開示する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	現代美術分野への視野と見識を得ることで、より深い創作・研究に向かい合うことができる。

講義科目名称： 現代美術の展開 B（今日の美術、またその状況 授業コード： L108
が示す論点）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	選択
担当教員			
山本 さつき			
科目ナンバリング：3L313S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	今日の美術、またその状況が示す論点		
授業の達成目標	本講義において扱うテーマは、今日、答えと言えるものがなく思考されつづけているものである。したがって、それらについて漫然と情報として受けとめることなく、批評精神をもって受講者自身が思考し、自らの視座をつくることを目標とする。		
授業科目の概要	視覚教材を併用し、今日の美術に指摘できる傾向、特色について観察、思考、分析していく。受講生によるグループ・ディスカッションの成果や、不定期に聴取するアンケートの内容をとりあげ、思考すべきベーシックな問題に加え、受講者の関心や問題意識を授業に反映させていく。		
授業計画	第1回 ガイダンス・導入課題 授業時間外の学習：授業最後の質問を再度考えまとめる。 第2回 「美術」と「アート」と「art」 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。 第3回 「日本美術」と「現代美術」 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。授業最後の質問を再度考えまとめる。小レポートの作成。 第4回 美術における形式の問題：彫刻 1ーディスカッション 授業時間外の学習：質疑応答（ないしはディスカッション）の内容を振り返り自身の疑問や論点をまとめる。 第5回 美術における形式の問題：彫刻 2ー講義 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。授業最後の質問を再度考えまとめる。 第6回 美術における形式の問題：絵画 1ーディスカッション 授業時間外の学習：質疑応答（ないしはディスカッション）の内容を振り返り自身の疑問や論点をまとめる。 第7回 美術における形式の問題：絵画 2ー講義 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。授業最後の質問を再度考えまとめる。 第8回 美術における形式の問題：写真・映像 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。授業最後の質問を再度考えまとめる。小レポートの作成。 第9回 場と作品 1：ホワイトキューブ 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。 第10回 場と作品 2：パブリック・アート 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。 授業最後の質問について調査し、再度考えをまとめる。 第11回 社会と作品 1ーディスカッション 授業時間外の学習：質疑応答（ないしはディスカッション）の内容を振り返り自身の疑問や論点をまとめる。 第12回 社会と作品 2ー講義とディスカッション 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。 第13回 社会と作品 3ー講義 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。 第14回 商品としての美術作品 1ーディスカッション 授業時間外の学習：質疑応答（ないしはディスカッション）の内容を振り返り自身の疑問や論点をまとめる。 第15回 商品としての美術作品 2ー講義 授業時間外の学習：授業内容や配布資料をあらため関心のある点、不明点をまとめる。		
授業時間外の学習	質疑応答やディスカッションの振り返り、内容についての関心や疑問のまとめのほか、小レポートの作成。詳細は授業計画を参照のこと。		
テキスト	使用しない。		
参考書・参考資料等	必要に応じて指示する。		

履修上の注意	トピックに対する自主的な学習のできる者、ディスカッションや質疑応答に積極的に参加できる者の受講を求める。その他、美術館やギャラリーなどを訪ね、積極的に現代の美術表現に触れること。 遅刻や授業中の離席・私語など、授業妨害にあたる行為には厳正に処する。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点（授業内の質疑応答、状況に応じたFormsによる課題、ディスカッションへの参加度）……40パーセント 単元ごとのまとめレポート……60パーセント
課題に対するフィードバックの方法	平時の質疑応答やFormsによる課題の内容は授業に反映させる。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	現代美術分野に対し批評性精神を持って思考することで、広く社会を認識し、より深く自己の創作や研究に向かい合うことができる。

講義科目名称： プロダクトデザイン論

授業コード： L098

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
内田 邦博			
科目ナンバリング：1L316S	実務経験を有する教員が担当する科目：該当	授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	プロダクトデザイン
授業の達成目標	様々な視点での気付き、良くする為のアイデアの模索、分かりやすく表現する手段…等、デザイナー的な視点で物事を捉え考える習慣を身につける。
授業科目の概要	プロダクトデザインの概念、成り立ち、役割や、商品が日常生活の中でどの様に作用しているかを知り、プロダクトデザインが果たす機能や使命を理解する。
授業計画	第1回 授業内容 ガイダンス 第2回 授業時間外の学習：日常体験を翌週にレポートする 授業内容 プロダクトデザイナーの資質 第3回 授業時間外の学習：日常体験を翌週にレポートする 授業内容 プロダクトデザイナーの役割 第4回 授業時間外の学習：日常体験を翌週にレポートする 授業内容 デザイン開発プロセス 第5回 授業時間外の学習：日常体験を翌週にレポートする 授業内容 デザインと知的財産 第6回 授業時間外の学習：日常体験を翌週にレポートする 授業内容 マーケティング 第7回 授業時間外の学習：日常体験を翌週にレポートする 授業内容 ターゲットとその変化 第8回 授業時間外の学習：日常体験を翌週にレポートする 授業内容 日本発信のデザイン 第9回 授業時間外の学習：日常体験を翌週にレポートする 授業内容 プロダクトデザインの現場 第10回 授業時間外の学習：講義内容を復習し期末に小論文をまとめる 授業内容 プロダクトデザインの歴史（著名デザイナーの偉業） 第11回 授業時間外の学習：講義内容を復習し期末に小論文をまとめる 授業内容 プロダクトデザインの実務（製造業を通じて） 第12回 授業時間外の学習：講義内容を復習し期末に小論文をまとめる 授業内容 アジアのプロダクトデザイン 第13回 授業時間外の学習：講義内容を復習し期末に小論文をまとめる 授業内容 プロダクトデザインとブランド

	第14回 授業時間外の学習：講義内容を復習し期末に小論文をまとめる 授業内容 愛知のデザイン（物づくりとは） 第15回 授業時間外の学習：講義内容を復習し期末に小論文をまとめる 授業内容 デザイナーの素養と必要とされる能力 授業時間外の学習：講義内容を復習し期末に小論文をまとめる。
授業時間外の学習	テーマを設け講義で学び気づいたことをホームワークで復習 記録する 次回のテーマについて時間外に予習する
テキスト	使用しない
参考書・参考資料等	使用しない 必要に応じて参考になる資料を紹介
履修上の注意	その時々感じた気持ちや印象、発想や連想を大切に、自分がデザイナー的な視点で物事を見る感覚を意識して欲しい。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	学習態度：20% 出席40% 最終レポート：40%
課題に対するフィードバックの方法	最終レポートにコメントを入れ返却する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	毎週講義後にミニ論文を書き講義最終日に講義で得た内容を総括した小論文と併せ評価、記録し実績をアーカイブすることにより学生各人の達成度と成果を学位授与、卒業認定の一助とする

講義科目名称： 日本建築史

授業コード： L130

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
村瀬 良太			
科目ナンバリング：2L322S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	温故知新、古きを訪ねて新しきを知ることは、建築を学ぶ上で基本となる。 日本建築を知ることによって知識を蓄え、創作の端緒になることを望みたい。
授業の達成目標	先史から近代へ連なる日本建築の歴史の大きな流れを理解する。 また講義中にスケッチの時間をとり、手を動かすことで平面計画や構造の仕組み、ディテールを理解する感覚を養う。
授業科目の概要	日本建築史は基本的に、先史、古代、中世、近世、近代に分けられる。 それら各時代ごとの建物について、重要と思われる建築を中心に解説する。
授業計画	第1回 イントロダクション ・ 建築の歴史を学ぶ意味 ・ 日本の風土と文化、建物の特徴について ・ 「建築の日本展」にみるデザインの可能性 ・ ディスカッション 第2回 先史時代の建物 ・ 縄文時代の住まい ・ 弥生時代の集落 ・ 古墳時代と大和王権 ・ 日本人の信仰と伊勢神宮 第3回 飛鳥時代の建物 ・ 仏教と東アジア ・ 仏教伝来 ・ 世界最古の木造建築、法隆寺 第4回 奈良時代の建物 ・ 平城京と内裏 ・ 薬師寺の東塔 ・ 唐招提寺と組物 第5回 平安時代の建物 ・ 平安京と都市住宅 ・ 寝殿造と源氏物語絵巻 ・ 多様化する仏教建築と野屋根の発明。和様の誕生 ・ 神社建築の発展 第6回 鎌倉時代の建物① ・ 武士の登場 ・ 東大寺再建と重源 ・ 大仏様と新和様 第7回 鎌倉時代の建物② ・ 禅宗の伝来と栄西 ・ 禅寺とその文化 ・ 禅宗様と折衷様 第8回 室町時代の建物 ・ 室町文化について ・ 鹿苑寺金閣と慈照寺銀閣 ・ 寝殿造から書院造へ ・ 庶民の住まい 第9回 安土桃山時代の建物 ・ 戦国時代の美 ・ 織田信長と安土城 ・ 千利休と待庵 第10回 江戸時代の建物① ・ 徳川家康と都市整備 ・ 書院造から数寄屋風書院へ ・ 日光東照宮と権現造り 第11回 江戸時代の建物② ・ 二条城二の丸御殿 ・ 桂離宮の美 ・ それ以外の建物 第12回 明治時代の建物 ・ 居留地の建物 ・ 明治維新とお雇い外国人

	・ 擬洋風建築 ・ 西洋建築の移入 第13回 日本の近代建築 ・ 新しいデザインをめざして ・ 関東大震災と鉄筋コンクリート造 ・ 世界の建築家から見た日本建築の美 ・ 建築家丹下健三 第14回 愛知の建物 ・ 近代名古屋の都市整備 ・ 愛知の産業と建物 ・ 「あいちのたてもの博覧会」について 第15回 期末レポート ・ 自分が興味を持った日本建築史の建物を一つ選び、まとめる。 ・ その際、図面やスケッチ、写真を用いて紙面のデザインすることも評価に入れる。 ・ なおレポートの書き方については、講義中で伝える。
授業時間外の学習	授業に登場した建物について、実物を少しでも多く見に行くことを望みたい。
テキスト	『日本建築史図集』 日本建築学会編／彰国社
参考書・参考資料等	『日本建築史序説』 太田博太郎著／彰国社 『日本建築史』 後藤治著／共立出版
履修上の注意	講義期間中に1～2回の建物見学を開催したいと思っている。 日程や出席についての詳細は改めて通達する。 (※新型コロナウイルスの状況次第で建物見学は行えない場合があります。)
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	出席10点、スケッチ10点×3回、期末レポート60点の計100点で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	期末レポートにコメントを入れる。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	日本建築に対し専門分野を横断した幅広い知識と視野を獲得し、自らの創作・研究に活かして表現することができる。

講義科目名称： デザイン概論（Rクラス・Sクラス）

授業コード： L093 L094

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
渡辺 一生			
科目ナンバリング：1L317S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	デザインの多義性を考える
授業の達成目標	デザインという概念に対して、学生それぞれが自分なりの切り口をもって考えられるようになること。
授業科目の概要	デザインとは何だろう。答えはひとつではないがゆえに、私達はそれを考え続けていかなければならない。そこでこの講義では、身の回りに今現在起っていることの中に、デザインのなるものや、あるいはデザインの観点、さらにはデザインそのものを見出すことを試みたい。冒頭の問いに対して、曖昧にはあっても自分の話し方で応答ができるようになることを目標とする。
授業計画	第1回 授業内容 “WHAT” とデザイン：言葉について 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第2回 授業内容 “WHO” とデザイン：相手 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第3回 授業内容 “WHEN” とデザイン：時間 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第4回 授業内容 “WHERE” とデザイン：場所 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第5回 授業内容 “WHY” とデザイン：理由 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第6回 授業内容 “HOW” とデザイン：手法 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第7回 授業内容 「音楽」とデザイン 1 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第8回 授業内容 「音楽」とデザイン 2 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第9回 授業内容 「生命」とデザイン 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第10回 授業内容 「構造」とデザイン 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第11回 授業内容 「技術」とデザイン 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第12回 授業内容 「文脈」とデザイン 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 第13回 授業内容 「都市」とデザイン

	第14回 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 授業内容 「社会」とデザイン 第15回 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認 授業内容 「創造」とデザイン 授業時間外の学習：授業時に採りあげた事例の確認
授業時間外の学習	授業内容の復習
テキスト	なし
参考書・参考資料等	『「我々は人間なのか？」デザインと人間を巡る考古学的覚え書き』ビアトリス・コロミーナ、マーク・ウィグリー著、ビー・エヌ・エヌ新社、2017
履修上の注意	5回欠席で失格となります。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点(60%)、レポート(40%)
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケート結果にコメントする
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	社会に対する認識を深め、創作・研究における発想や表現に反映する。

講義科目名称： 建築概論

授業コード： L106

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
渡辺一生			
科目ナンバリング：1L319S	実務経験を有する教員が担当する科目：該当	授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	建築家のしごと、建築分野のしごと、地域のなかでの建築の役割とその可能性を思考する基礎的な知識を身につける。
授業の達成目標	建築をすきになり、建築分野の概要を知る。 建築家の職能・役割を理解することができる。 建築専門分野の全体像を把握することができる。 現代の日本のみならず古今東西の建築の多様さを知ることができる。 地域社会におけるこれからの建築の役割を考察する力を得ることができる。
授業科目の概要	建築とは何かをすること・考えること、建築をすきになることを目的とする。 建築の初学者を対象とする必修科目であるが、建築分野ではない学生の聴講を歓迎する。 本授業は1：「建築学全般についての概論」と2：「本学での建築教育の特徴」との、2つのテーマにわけて講義を行う。 建築学全般についての概論は「建築はどのように設計され、つくられるか」と題し、建築の初学者向けに建築家の職能、建築分野の体系および現代建築の概要とこれからの可能性について紹介・講義を行うものである。建築は裾野がひろい分野であり、古今東西のさまざまな文化のもとにいろいろな建築が存在している。一方、現代の日本の多くの大学では建築分野は工学部に属しているように技術的な側面も強い分野でもある。そのような建築分野の体系をしり、これから学ぶさまざまな建築の専門分野の初歩的な内容をつかみつつ、建築をすきになることを目的とする。 本学での建築教育の特徴を「地域社会圏概論」と題し、地域をつくる建築を考える上での建築思想「地域社会圏」の系譜と可能性について紹介・講義を行う。「地域社会圏」という言葉は建築家・山本理顕が2007年に横浜国立大学大学院Y-GSAでのスタジオで取り組むテーマとしたのに始まりである。その後の山本の著書や論文における提唱内容を講義するとともに、提唱に影響を受けた若い建築家の活動や国内外でおなじテーマに取り組む事例を紹介することで、これから建築を学ぶ学生が自分のテーマをつかむてがかりにすることを目的とする。
授業計画	第1回 授業内容 ◆ガイダンス、さまざまな建築の紹介 第2回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 1 「建築家の仕事・役割」 第3回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 2 「建築分野での仕事の種類」 第4回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 3 「建築学の体系」 第5回 授業内容 ◇地域社会圏概論 No. 1 「地域社会圏」とは何か・地域とともにある建築 第6回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 4 「木造・組積造・鉄骨造・RC造・膜構造」 第7回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 5 「建築を建てる技術」 第8回 授業内容 ◇地域社会圏概論 No. 2 「地域社会圏」と建築家のありかた 第9回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 6 「建築を計画する」 第10回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 7 「建築の環境・都市の環境」 第11回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 8 「都市のつくられかた」 第12回 授業内容 ◇地域社会圏概論 No. 3

	「地域社会圏」の事例・地域と素材技術、建築と公共空間 第13回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 9 「地震につよい建築」 第14回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 10 「近代の住環境の課題」 第15回 授業内容 ◆建築はどのように設計され、つくられるか No. 11 「都市と建築の基本法・建築士資格」
授業時間外の学習	日頃から建築・地域・都市への関心を持ち、よく観察し、また専門分野の図書や雑誌を目をとおす週間をつけること。
テキスト	使用しない。
参考書・参考資料等	適宜、授業内に資料を配布・紹介する。
履修上の注意	欠席は5回までとし、それを超えた場合はレポート提出を受け付けない。 30分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	出席（45%）、レポート（55%）
課題に対するフィードバックの方法	レポート返却時に教員からのコメントを添える
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	初学者のための建築分野、地域社会圏分野の講義であり、この講義を基礎として専門分野を学ぶ

講義科目名称： インテリアデザイン論

授業コード： L091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
溝口 周子			
科目ナンバリング：1L320S	実務経験を有する教員が担当する科目：該当	授業時間外学習時間：2時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	「インテリアデザイン」とは何か
授業の達成目標	インテリアの原点は何かを理解し、実例を見ながら視野や興味の幅を広げる。インテリア空間の構成、素材、関連法規の知識を深め、実際の設計デザインへ活かす力をつける。
授業科目の概要	インテリア空間とは何か。建築との関係や歴史の流れから現代のインテリアに至る知識を深め概要を把握する。また実作品を通して、美しいと感じるインテリアの空間的特徴の考察、それを構成する家具、材料、照明、など様々な要素についての知識と理解を深める。インテリア業界実務で活躍している講師の方の経験、作品事例を聞き考察する。
授業計画	第1回 授業内容 序論 インテリアとは？ 作品紹介 第2回 授業時間外の学習：教科書の確認と授業内容の予習 授業内容 西洋のインテリア史 第3回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 日本のインテリア史 1 第4回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 日本のインテリア史 2 第5回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 現代の家具 第6回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 空間の成り立ち 第7回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 照明計画・色彩の効果 第8回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 エレメントの計画＜内装材料＞ 第9回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 エレメントの計画＜ファブリック＞ 第10回 授業時間外の学習：授業レポートの作成1 授業内容 内装の構法と人体寸法 第11回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 法規と安全性、実務とプロセス 第12回 授業時間外の学習：授業レポートの作成2 授業内容 インテリアデザイナーの作品紹介 1 第13回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容

	インテリアデザイナーの作品紹介 2 第14回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 インテリアデザイナーの作品紹介 3 第15回 授業時間外の学習：授業内容の復習 授業内容 まとめテスト 授業時間外の学習：テストの見直し
授業時間外の学習	講義内容のプリントを復習する。レポートの作成。
テキスト	特になし。授業内で資料を配布。
参考書・参考資料等	超図解で全部わかるインテリアデザイン入門（Aiprah ㈱エクスナレッジ）
履修上の注意	特別講師の講義を聞き、授業内で指示したレポートを作成し提出すること。（計3回）
人数制限、必要スキル	特になし
授業で使用するソフト等	特に無し
成績評価の方法・基準	配点 平常点50% レポート30% 小テスト20%。 総合点として60点以上で合格。
課題に対するフィードバックの方法	レポートにコメントし授業内で返却
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	インテリア空間に対する幅広い知識と視野を獲得し、自らの創作に活かして表現することができる。

講義科目名称： 西洋建築史

授業コード： L116

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
柳澤 宏江			
科目ナンバリング：2L323S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	古代から現代に至る西洋建築について概説し、建築様式、意匠、技術等の変遷を学ぶ。		
授業の達成目標	講義と復習レポートを通じて、西洋建築の歴史を理解する。		
授業科目の概要	古代から現代に至る西洋建築に関して、社会的、文化的背景から解説を受けることにより、環境や生活習慣、時代背景、学問の発展といった影響関係によって発展した西洋建築の建築様式、意匠、技術の変遷を学ぶ。		
授業計画	第1回	授業内容 エジプト建築	
	第2回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 オリエント建築	
	第3回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 ギリシア建築	
	第4回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 ローマ建築	
	第5回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 初期キリスト教建築	
	第6回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 ビザンティン建築	
	第7回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 イスラム建築	
	第8回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 ロマネスク建築	
	第9回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 ゴシック建築	
	第10回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 中世の世俗建築	
	第11回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 ルネサンス建築	
	第12回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 バロック建築	
	第13回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 リヴァイヴァル建築	
		授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。	

	第14回 授業内容 西洋文化の移入 第15回 授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 歴史的建造物の保存、レポート提出 授業時間外の学習：講義の復習をして、レポート課題に取り組む。
授業時間外の学習	授業内にて配布するプリントと教科書、参考文献を参照して、小レポートを作成し復習する。
テキスト	「建築史」編集委員会編、『コンパクト版建築史』、彰国社、2009年
参考書・参考資料等	『西洋建築史図集』、日本建築学会、1981年 光井渉、太記祐一、『建築と都市の歴史』、井上書院、2017年 佐藤 達生、『図説 西洋建築の歴史 美と空間の系譜』河出書房新社、2005年
履修上の注意	講義内において、毎回10点満点の小テストを課す。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	小テスト50%、期末レポート50%で100点を満点とし、70%以下、70～80%、80～90%、90%以上をそれぞれ評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小レポート、期末レポートは適宜返却する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	歴史的な建築物の特徴を理解し、創作・研究に必須なデザインリテラシーを身につける。

講義科目名称： 近代建築史

授業コード： L103

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
柳澤 宏江			
科目ナンバリング：2L324S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	産業革命から現代に至る近代建築について解説し、意匠や構造の変遷を学ぶ。		
授業の達成目標	講義を通じて、ヨーロッパとアメリカにみる近代建築の歴史、そして日本との関係について理解する。		
授業科目の概要	産業革命から現代に至るまで、主としてヨーロッパとアメリカ、そして日本の近代建築に関する解説を受けることにより、建築意匠、構法、技術そして設計手法の変遷を学ぶ。		
授業計画	第1回	授業内容 新材料を用いた構築物	
	第2回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 都市問題・住宅問題	
	第3回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 アーツ・アンド・クラフツ運動	
	第4回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 アール・ヌーヴォ	
	第5回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 アメリカ建築の近代化	
	第6回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 セセッション	
	第7回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 鉄筋コンクリート造建築の登場	
	第8回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 ドイツ工作連盟	
	第9回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 近代建築運動	
	第10回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 モダニズム建築の完成と流布	
	第11回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 アール・デコとスカイスクレイパー	
	第12回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 第二次世界大戦後の建築	
	第13回	授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 ポスト・モダニズム建築	
		授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。	

	第14回 授業内容 日本近代建築史—モダニズム建築の到来— 第15回 授業時間外の学習：テキストに目を通し、旅先や身近な建物も興味を持って観察する。 授業内容 日本近代建築史—日本建築界からの発信—、レポート提出 授業時間外の学習：講義の復習をして、レポートに取り組む。
授業時間外の学習	授業内にて配布するプリントと教科書、参考文献を参照して、小レポートを作成し復習する。
テキスト	「建築史」編集委員会編、『コンパクト版建築史』、彰国社、2009年
参考書・参考資料等	『近代建築史図集』、日本建築学会、1976.1 光井渉、太記祐一、『建築と都市の歴史』、井上書院、2017年 ケネス・プラトン『モダン・アーキテクチャ 近代建築の黎明』①、②、大日本印刷、2004年
履修上の注意	講義内において、全12回10点満点の小レポートを課す。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	小テスト50%、レポート50%で100点を満点とし、70%以下、70～80%、80～90%、90%以上でそれぞれ評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、適宜返却する。レポートは、採点結果を配布する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	近代の建築デザイン思想について理解し、自らの創作・研究に必須なデザインリテラシーを身につける。

講義科目名称： 近代デザイン史

授業コード： L102

英文科目名称： History of Modern Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
鈴木 民			
科目ナンバリング：1L325S			
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	近代におけるデザインムーブメントとその変遷		
授業の達成目標	近代の優れたデザイン作品、デザイナーの特徴をデザインムーブメント（デザイン運動）毎に把握し、創作・研究の礎となる基礎知識を得る。また表層的な作品の特徴だけでなく、時代の社会情勢や技術発展など、それぞれの作品が生まれた背景とその影響を理解し、デザインおよび創作・研究活動への多角的な視点を習得することを目指す。		
授業科目の概要	近代の主要なデザインムーブメント（デザイン運動）を概説すると同時に、デザインへの視点を養うことを目的とする。講義とともに学生各自による予習、復習をおこなう事で理解を深め、毎回の講義終了時、および授業終了までに課題レポートを作成する。授業期間内に調整が可能な場合は、実際のデザイン作品を見学する学外実習を行う場合もある。また、各時代の名品や社会背景に関する知識の習得を確認するため、授業中にはテストまた課題レポートの作成を実施する。テストの形式、タイミングは授業の中で随時情報共有をおこなうものとする。（対面またはオンラインの授業形式によって異なる）。		
授業計画	第1回	授業内容 ガイダンス（テーマ作品とムーブメントの選択） *課題提出、テストのタイミングは授業中に情報共有（授業内容は変更となる場合があります）	
	第2回	授業時間外の学習：第2回の予習 授業内容 アーツ&クラフツ運動	
	第3回	授業時間外の学習：復習 授業内容 パリ万博とアール・ヌーヴォー	
	第4回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 アール・デコ	
	第5回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 ウィーン工房とジャポニズム	
	第6回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 ドイツ工作連盟とロシア構成主義	
	第7回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 バウハウスの機能主義とデザイン教育	
	第8回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 デ・スティールとロシアアバンギャルド	
	第9回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 日本の工芸指導所とモダニズム、工芸運動	
	第10回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 マシンエイジとアメリカンデザイン	
	第11回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 オーガニックデザインから戦時下のデザイン	
	第12回	授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容	

	ミッドセンチュリーモダン 第13回 授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 日宣美とGマークデザイン制度 第14回 授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 ウルム造形大学 第15回 授業時間外の学習：予習＋復習 授業内容 ポスト・モダニズム 授業時間外の学習：予習＋復習
授業時間外の学習	事前説明をもとに授業内容を予習、復習。授業終了後の復習レポートと課題レポートの作成。
テキスト	授業時に資料配布（＊授業内容は変更となる場合があります）
参考書・参考資料等	配布資料以外は指定無し。予習、課題レポート作成時は各自書籍や論文類の情報を元にリサーチ。原則web上の無記名情報は元資料として使用不可。
履修上の注意	5回欠席は単位取得不可。遅刻は0.5日欠席。出席および履修態度40%、予習復習30%、課題レポートまたはテスト30%を統合して評価する。講義中の私語禁止。予習復習と課題レポート提出必須。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	出席、予習、復習を含めた履修状況、課題レポートまたはテスト。
課題に対するフィードバックの方法	課題の提出方法、質疑応答は授業内で情報共有
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	自らの創作・研究の礎となる基礎知識を得るとともに、さまざまなデザイン分野の作品、作り手の活動、社会との関わりを知ることで専門分野を横断した広い視点を養い、豊かで独創性に優れた創作、研究活動をおこなう素地を育成する。

講義科目名称： 色彩学（Rクラス・Sクラス）

授業コード： L112 L113

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
ながなわ 久子			
科目ナンバリング：1L327S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義（演習含む）		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	デザイナーやアーティストが色を扱うための基礎理論		
授業の達成目標	①デザインや創作活動に必要な色彩の基礎知識を習得する ②生活環境にある様々な色彩の調査分析手法を学ぶ ③目的にあった色彩表現ができる力を養う ④関連する分野への関心を深める 使用テキストがデザイナーやアーティスト向けの色彩士検定に対応しているため、資格取得を目指すこともできる。		
授業科目の概要	色彩学は学際的な学問で内容は多岐にわたるが、授業では特にデザイン・創作活動に必要な知識を中心に採り上げ、色彩の基礎を学ぶ。 また配色カードを使った色彩分析の手法を学び、カラーイメージや配色技法から色彩設計の応用へつなげていく。		
授業計画	第1回	授業内容 色の基礎① 授業ガイダンス、色感トレーニング	
	第2回	授業時間外の学習：カラーカード切り貼り（宿題） 授業内容 色の基礎② 色の三属性、色感トレーニング	
	第3回	授業時間外の学習：カラーカード切り貼り（宿題）、配付プリント（宿題）、テキスト熟読、 授業内容 色の基礎③ 色立体、トーン、色感トレーニング	
	第4回	授業時間外の学習：カラーカード切り貼り（宿題）、配付プリント（宿題）、テキスト熟読 授業内容 色彩の物理 色と光	
	第5回	授業時間外の学習：課題作成（宿題）、テキスト熟読 授業内容 色彩の知覚 目の機能と色覚	
	第6回	授業時間外の学習：テキスト熟読 授業内容 色をつくる 混色理論と色再現	
	第7回	授業時間外の学習：配付プリント（宿題）、テキスト熟読 授業内容 色の表示① 表色系	
	第8回	授業時間外の学習：配付プリント（宿題）、テキスト熟読 授業内容 色の表示② 色名	
	第9回	授業時間外の学習：テキスト熟読 授業内容 色の表示③ 色名、色彩分析	
	第10回	授業時間外の学習：配付プリント（宿題）、テキスト熟読 授業内容 色彩の心理 色のイメージ、連想	
	第11回	授業時間外の学習：課題作成（宿題）、配付プリント（宿題）、テキスト熟読 授業内容 色の知覚効果 色の相互作用	
	第12回	授業時間外の学習：配付プリント（宿題）、テキスト熟読 授業内容 色の知覚効果 色の伝達効果	

	第13回 授業時間外の学習：課題作成（宿題）、配付プリント(宿題)、テキスト熟読 授業内容 色彩調和① 調和の原理 色相とトーンを基準にした配色 第14回 授業時間外の学習：配付プリント(宿題)、テキスト熟読 授業内容 色彩調和② 効果的な配色技法 伝統的な配色技法、 第15回 授業時間外の学習：配付プリント(宿題)、テキスト熟読 授業内容 色彩調和③ パステルを使った配色演習 まとめ 授業時間外の学習：期末課題制作準備、テキスト熟読
授業時間外の学習	事業計画に記載
テキスト	Color Master BASIC (NPO法人アデック出版局)、 配色カード158 b (日本色研事業株)、 配色カード158用演習台紙 (日本色研事業株)
参考書・参考資料等	授業時に指示
履修上の注意	第1回から、配色カード・はさみ・のりを使用するので必ず持参すること。 テキスト以外に演習用として200円程度の費用がかかる。(授業時に指示、各自で購入)
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	期末試験（作品課題）100%
課題に対するフィードバックの方法	授業時にパワポで講評を行う。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	デザイン創作活動における発想や表現の基本的な能力を養う

講義科目名称： 情報表現概論A

授業コード： L095 L304

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
外山 貴彦			
科目ナンバリング：2L330S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	メディアによる表現やデザインを幅広く知る
授業の達成目標	この数十年の技術的な進歩によって変革してきたメディア表現の多様性を知り、時代とともに変化してきたメディア表現の歴史とともに、これから新たな表現としてどのようなことが発生してくるかを考察し、また理解する。
授業科目の概要	メディア表現の歴史を追いながら、時代とともに変化する技術、またその応用方法や、表現の変化、その時々作家やデザイナーの思考などを様々な作品を通じて考え、メディア概論Aでは初期の印刷から写真技術、映像技術、アニメーション、さらにはコンピューターによるCG技術などを中心に、時代とともに私たちに関わる様々なメディアの流れを紹介しながら、今後の新たな表現やデザインの可能性を考察する。 *メディア概論Bはメディア概論Aの続きの内容となっているため、メディア概論Bも履修するのが望ましい。
授業計画	第1回 メディアによるコピーの時代・印刷技術から写真技術へ 第2回 カメラと写真・写真技術の誕生による新たな表現と写真の歴史 第3回 映像装置と映像・写真技術から生まれた映像技術、映像がもたらした新しい表現 第4回 映像装置と映像・フィルム映像というメディア 第5回 映像装置と映像・映像表現と政治 第6回 映像表現とフィルム・コマアニメーションという概念と映像1 第7回 映像表現とフィルム・コマアニメーションという概念と映像2 第8回 映像表現とメッセージ 第9回 世界の映像作家達 第10回 コンピューターグラフィックス1・コンピューターという装置 第11回 コンピューターグラフィックス2・コンピューターが描く映像 第12回 コンピューターグラフィックス2・複雑化するCG映像、その技術と表現 第13回 カメラと映像・カメラ技術の進化、カメラを知る 第14回 カメラと映像・多様化する映像表現、映画からプロモーションビデオ、サイネージなど 第15回 情報表現概論A まとめ
授業時間外の学習	配布資料をもとに授業内容を復習すること。また紹介した作品や映像などを改めて鑑賞するなどし、各自で調べ、それについてそれぞれの見解などを持つこと。
テキスト	授業毎に配布
参考書・参考資料等	授業毎に配布
履修上の注意	5回欠席（遅刻も含む）すると失格
人数制限、必要スキル	

授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点、出席 5 0 % 毎回のレポート 5 0 %
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケート結果にコメントを入れる
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	選択

講義科目名称： 情報表現概論B

授業コード： L097 L305

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
外山 貴彦			
科目ナンバリング：2L331S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義科目
授業のテーマ	メディアによる表現やデザインを幅広く知る
授業の達成目標	情報表現概論Aに引き続き、Bでは映像・アニメーション・ゲームなどを深掘りしながらデザインの流れやネットワーク社会、さらにはアート表現などにも踏み込んで、メディアとデザイン、メディアとアートのこの数十年の遍歴を知り、現在多様化するデジタル化やメディア表現の可能性を知る。
授業科目の概要	ここ数十年で大きく変化してきたメディアによる表現をいくつかのカテゴリーに分けて分析し考察する。特に概論Bでは、概論Aから引き続き、映像、アニメーション、ゲームなど現在の表現の中核になっているメディアを深掘りし、コンピュータ、インターネットによるメディアの変化、スマートフォンなどのようなモバイルメディア、ユビキタス時代による表現、さらアートとメディアなどを取り上げ、メディア技術の変革によって多様化したデザインやアートを題材に、ここ数十年の変化を追いかけながら、次世代の表現や可能性を考察する。 *なお情報表現概論Aを履修していることが望ましい。
授業計画	第1回 情報表現概論Aのダイジェスト 第2回 映像とプロジェクションマッピング ・新たな映像表現のフィールド 第3回 映像とプロジェクションマッピング ・技術的側面と事例紹介 第4回 アニメーション・日本のアニメの歴史と半世紀の進化 第5回 アニメーション・セル技術からデジタル技術へ 第6回 アニメーション・デジタル化によるアニメ技術の応用 第7回 アニメーション・多様な表現をもつアニメーション監督達 第8回 映像と芸術・メディアアートの歴史、表現とは何か 第9回 映像と芸術・デジタル技術によるアート表現の変革 第10回 メディアと表現・エンターテインメントとアート 第11回 メディアと表現・これからのメディアアート、デザインとアートの垣根 第12回 ネットワーク技術とインターネット・ネットワークで繋がった新たなメディア表現 第13回 サイエンス、テクノロジー、デザイン・マーケットとグラフィック、グラフィックデザインの進化 第14回 サイエンス、テクノロジー、デザイン・これからの表現、人工知能やロボットテクノロジー 第15回 メディア概論B総括・これからの表現者として、作品制作のノウハウやプロジェクト紹介
授業時間外の学習	配布資料をもとに授業内容を復習すること。また紹介した作品や映像などを改めて鑑賞するなどし、各自で調べ、それについてそれぞれの見解などを持つこと。
テキスト	授業毎に配布
参考書・参考資料等	使用しない
履修上の注意	5 回欠席（遅刻も含む）すると失格

人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点、出席 5 0 % 毎回のレポート 5 0 %
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケート結果にコメントを入れる。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	選択

講義科目名称： 工芸論

授業コード： L139

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
墨 美穂子			
科目ナンバリング：2L345S		授業外学習時間/週1時間以上	
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	専門講義
授業のテーマ	工芸のもののづくり、その根幹にあるものとは？
授業の達成目標	・伝統工芸のもののづくりの現状について理解を深め、今後のもののづくりについて自身の考えを述べることができる。 ・自身の制作のモチーフとコンセプトを説明することができる。 ・伝統工芸のもののづくりを自身の専門分野に活かし、作品を制作することができる。 ・様々な制作物に触れて感性や洞察力を養い、自身のアイデアを基に未来のもののづくりに取り組むことができる。 ・他者の制作物に対して自身の考えを述べるができる。
授業科目の概要	日本をはじめ、世界にはその地域の歴史や風土に育まれた様々な伝統工芸品が存在しているが、手仕事によるもののづくりは後継者不足などの問題に直面している。この授業では工芸の歴史について概説するとともに、漆工、金工、木工、陶工、染織、ガラスなどの伝統工芸のもののづくりの工程、素材、技法の特徴について映像を参照しながら解説する。受講生は伝統工芸に携わる職人の心と技について理解を深め、自身の専門分野に活かした未来のもののづくりの構想に取り組む。
授業計画	第 1 回 授業内容：工芸とは？ 授業時間外の学習：自主学習 第 2 回 授業内容：工芸の歴史 授業時間外の学習：自主学習 第 3 回 授業内容：伝統の技と心 漆工 授業時間外の学習：自主学習 第 4 回 授業内容：伝統の技と心 木工 授業時間外の学習：自主学習 第 5 回 授業内容：伝統の技と心 金工 授業時間外の学習：自主学習 第 6 回 授業内容：伝統の技と心 陶磁 授業時間外の学習：自主学習 第 7 回 授業内容：伝統の技と心 染織 授業時間外の学習：自主学習 第 8 回 授業内容：職人を支える道具 授業時間外の学習：自主学習 第 9 回 授業内容：民藝 用の美 授業時間外の学習：自主学習 第 1 0 回 授業内容：国宝・重要文化財 授業時間外の学習：自主学習 第 1 1 回 授業内容：工芸ノートⅠ（デザイン） 授業時間外の学習：自主学習 第 1 2 回 授業内容：工芸ノートⅡ（アート） 授業時間外の学習：自主学習 第 1 3 回 授業内容：工芸ノートⅢ（近未来） 授業時間外の学習：自主学習 第 1 4 回 授業内容：工芸ノートⅣ（構想） 授業時間外の学習：自主学習 第 1 5 回

	授業内容：工芸ノートⅤ（表現） 授業時間外の学習：自主学習
授業時間外の学習	自主学習
テキスト	授業時に指示する
参考書・参考資料等	特になし
履修上の注意	多様なものを観察し、自身の興味の対象について素材・工程・デザイン等の洞察に意識を傾ける。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	授業への参加態度（50％）、課題（50％）
課題に対するフィードバックの方法	提出課題に対して質疑応答を行う。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	自身の専門領域を超えてものづくりの理解を深め、専門分野におけるクリエイティビティを高める。

講義科目名称： 環境デザイン論

授業コード： L101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3・4年次	2単位	選択
担当教員			
溝口 達也			
科目ナンバリング：3L339S		授業時間外学習時間：4時間/週	
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	専門講義科目		
授業のテーマ	「人は自然の一部」であるという日本古来の自然観の再考		
授業の達成目標	暮らしや環境をデザインするとはどういうことかを学ぶ		
授業科目の概要	地球の歴史をたどりながら、自然の働きを学び、人と自然の最適解を探す		
授業計画	第1回	ガイダンス 自己紹介を兼ねて、美大でアートを学んでから、家業である庭づくりをはじめ、持続可能な生き方を求め地球環境と向き合いたいと考える今日までを、スライドを通して紹介。	
	第2回	地球誕生の歴史～ 人はどこから来てどこへ行くのか	
	第3回	映像：世界でいちばん貧しい大統領 - 愛と闘争の男、ホセ・ムヒカ - 環境史 人と自然の相互関係について 映像：グレタ・トゥーンベリー国連スピーチ、アル・ゴア 不都合な真実	
	第4回	自然生態系の仕組みⅠ 土壌について	
	第5回	映像：プラネットアースⅠ 自然生態系の仕組みⅡ 植物について	
	第6回	映像：プラネットアースⅡ 自然生態系の仕組みⅢ 食物連鎖について	
	第7回	映像：プラネットアースⅢ 持続可能な暮らしのデザインⅠ パーマカルチャーデザイン - 循環の仕組み -	
	第8回	映像：人生フルーツ 津端修一、秀子 持続可能な暮らしのデザインⅡ 先人に学ぶ自然を取り込んだ暮らしのデザイン - 里山、居久根 -	
	第9回	映像：里山Ⅱ - 命をめぐる水辺 持続可能な暮らしのデザインⅢ 火・風・水のデザイン	
	第10回	映像：用水路が運ぶ恵みと平和 ペルシャワール会 中村哲 環境デザイン事例Ⅰ ランドスケープデザイン、ランドアート	
	第11回	スライド、映像：イサム・ノグチ、パトリック・ブラン、プランタゴ、フンデルトヴァッサー、藤森照信 リチャード・ロング、アンディー・ゴールズワージー、ニルス・ウド、岩谷雪子 環境デザイン事例Ⅱ 都市の中での自然再生	
	第12回	スライド、映像：ポートランド、ハイライン、チョンゲチョン 環境デザイン事例Ⅲ 建築と自然の融合	

	第13回 スライド：ジェフリー・バワを巡る旅 私の作品から見る環境デザインⅠ 越後妻有アートトリエンナーレ2006・2009 第14回 スライド：脱皮する家、コロッケハウス 私の作品から見る環境デザインⅡ ランドスキップの庭 第15回 スライド、映像：実生のニハ、循環のニハ、おのずからのニハ、倉渕のニハ、大町のニハ 課題提出 授業で学んだことをもとに、それぞれの視点で場所を選択し、環境に配慮した暮らしのデザイン、ランドスケープデザインをレポート用紙にまとめ提出。
授業時間外の学習	環境問題に関する新聞記事等の最新の情報に気をつける
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	パーマカルチャー - 農的暮らしの永久デザイン - 土中環境 高田宏臣 環境史年表 サピエンス全史 他
履修上の注意	自らの専門分野との関係の視点からの理解を求む
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点30% 期末レポート50% 授業態度20%
課題に対するフィードバックの方法	課題に対しコメントを入れる。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	基礎科目

講義科目名称： ICT教育論

授業コード： L376

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：2L613S			
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	学校におけるICT教育の理論と実践		
授業の達成目標	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技術を身に付ける		
授業科目の概要	今日の時代に求められる情報通信技術の具体的内容、活用方法、留意点などを学ぶ。実際に学習支援ソフトを使った授業を経験する。		
授業計画	第1回 授業内容 ガイダンス 第2回 授業内容 新しい社会で求められる人材像と学びの在り方ーICT技術の可能性と限界 第3回 授業内容 新学習指導要領とICT技術ー個別最適な学びと協働的な学びの実現 第4回 授業内容 学校におけるICT環境の整備と課題、情報モラル、特別な支援を必要とする生徒への支援策 第5回 授業内容 ICT技術の活用ー学習支援ソフトの機能、操作方法 第6回 授業内容 ICT技術の活用ー学習支援ソフトを使った指導案例の作成 第7回 授業内容 学習支援ソフトを使った模擬授業 第8回 授業内容 統合型校務支援ソフトの活用、遠隔・オンライン授業の実施方法		
授業時間外の学習	配布された資料を読むこと。学習支援ソフトを使い授業案を作成する。		
テキスト	なし。資料は配付する。		
参考書・参考資料等	中学校、高等学校学習指導要領		
履修上の注意	集中講義で実施するので欠席しないこと。ノートパソコンを使用する。		
人数制限、必要スキル			
授業で使用するソフト等	講義で指示する		
成績評価の方法・基準	レポート 50%、授業への参加状況 50%		
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケートへのコメント		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教職科目		

講義科目名称： 総合的な学習の時間の指導法

授業コード： L354

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
宮城 道良			
科目ナンバリング：2L625C			
添付ファイル			

授業形態	単独
科目区分	道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目
授業のテーマ	「総合的な学習（探求）の時間」の意義を理解し、総合的な学習を実施する場合の計画、留意点を理解する。
授業の達成目標	1、「総合的な学習の時間」がなぜ創設されたか、その背景について理解する 2、「総合的な学習（探求）の時間」の特質を理解することで、教育的な意義と学校の教育課程において果たす役割について考える 3、「総合的な学習（探求）の時間」の目標と内容を理解するとともに、育成すべき資質・能力について考える
授業科目の概要	学習指導要領における位置づけを理解し、具体的な実践を分析する。総合的な学習の指導計画を立案できるようにする
授業計画	1 総合的な学習の時間の意義と原理 2 総合的な学習の時間の指導計画の作成 3 総合的な学習の時間の指導例（1） 生徒の自主性を生かした総合的な学習の時間な学習の指導例 （さまざま学校の指導例を紹介） 4 総合的な学習の時間の指導例（2） 修学旅行の事前学習の指導例 （同朋高校の沖縄修学旅行事前学習において、放課後生徒による元兵士の「戦場体験証言」講演の準備などの指導例） 5 総合的な学習の時間の指導例（3） 教科間の連携を生かした指導例 （同朋高校の沖縄修学旅行の事前学習において、国語科・地歴公民科・英語科による授業実践例など） 6 総合的な学習の時間の指導例（4） 特別活動、部活動とば連携を生かした指導例 （授業⇔同朋高校放送部の活動⇔地域・市民。放課後に市民と結びついて、放送部生徒が「戦場体験」「ドラッグ」「過労自殺」などの証言を聞きとり、部内対話をへてドキュメンタリー作品化した指導法や、それを地域・授業で活用した指導法を説明する） 7 総合的な学習の時間の学習指導案の作成 8 学習指導案の講評、まとめ
授業時間外の学習	なし
テキスト	△中学校、高等学校学習指導要項
参考書・参考資料等	◎石井拓児・宮城道良『高校生・若者たちと考える過労死・過労自殺―多様な生き方を認める社会を』（学習の友社） △文部科学省『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について』（中央教育審議会第一次答申） △美谷島正義ほか『総合的な学習の時間の指導法』（開隆堂）
履修上の注意	筆記用具・色マジック8～12本・新聞紙3～4日分
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点20%、提出物30%、期末レポート50%
課題に対するフィードバックの方法	提出物については、授業時間内で記入してもらい、そのいくつかを授業内で紹介する。 期末レポートは発表形式で行い、その都度口頭で講評を行う。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	小学校・中学校・高等学校の教員免許状取得のための科目

講義科目名称： 特別支援教育論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3 年次	2 単位	必修
担当教員			
大橋 徹也、目黒 達哉			
科目ナンバリング：3L626C			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	教職課程に関する科目
授業のテーマ	授業の到達目標及びテーマ 1. 障害のある子どもの教育の歴史の変遷と現在の到達点について説明できる。 2. 特別支援教育の制度やしぐみを理解し、その意義や課題を説明できる。 3. 特別な教育的ニーズのある子どもの困難を理解し、支援のあり方について説明できる。
授業の達成目標	授業の到達目標及びテーマ 1. 障害のある子どもの教育の歴史の変遷と現在の到達点について説明できる。 2. 特別支援教育の制度やしぐみを理解し、その意義や課題を説明できる。 3. 特別な教育的ニーズのある子どもの困難を理解し、支援のあり方について説明できる。
授業科目の概要	本科目では、特別な教育的ニーズのある子どもの支援のあり方を多面的に検討するために、障害のある子どもの教育に関する歴史や制度についての基礎的な内容を講述する。その上で、発達障害等のある子どもについての理解を深め、通常の学校・学級における実践的課題について検討する。
授業計画	1回 特別支援教育の理念（大橋） 2回 特別支援教育の制度（大橋） 3回 特別支援教育の支援のシステム（大橋） 4回 特別支援教育コーディネーター（大橋） 5回 特別支援教育における個別の計画（大橋） 6回 知的障害のある児童生徒への指導と支援（大橋） 7回 知的障害の周辺にある児童生徒への指導と支援（大橋） 8回 発達障害のある児童の指導と支援（大橋） 9回 多様な障害のある児童の指導と支援（大橋） 10回 家族や専門機関との関係（大橋） 11回 特別な教育的ニーズのある子どもの理解とその支援① LDのある子ども（目黒） 12回 特別な教育的ニーズのある子どもの理解とその支援② ADHDのある子ども（目黒） 13回 特別な教育的ニーズのある子どもの理解とその支援③ 自閉症スペクトラムのある子ども（目黒） 14回 特別な教育的ニーズのある子どもの理解とその支援④ 障害はないが支援が必要な子ども（目黒） 15回 まとめ 特別支援教育を担う教師のあり方等（目黒）
授業時間外の学習	復習を行うこと
テキスト	必携(第1回～第10回)：『はじめての特別支援教育〔改訂版〕－教職を目指す大学生のために』有斐閣アルマ・(株)有斐閣(2014年)
参考書・参考資料等	授業時に指示・提示
履修上の注意	欠席不可

人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	授業時に指示
課題に対するフィードバックの方法	対面授業
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教職課程科目

講義科目名称： 美術科教育法Ⅳ

授業コード： L370

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	必修
担当教員			
野村 由香里			
科目ナンバリング：3L627S			
添付ファイル			

授業形態	(村田担当 4回) 講義と演習。 (野村担当 11回) 講義と演習。
科目区分	
授業のテーマ	(村田担当 4 回) 美術教育における映像のありかたを考える。 (野村担当 11回) 美術教育における絵画・彫刻、デザイン分野の題材の「育成すべき資質・能力の三つの柱」について考える。
授業の達成目標	(村田担当 4 回) 映像をもって、美術教育に活用できる方法を計画書でまとめる。 (野村担当 11回) 美術教育のねらいをおさえた絵画・彫刻・デザインの題材を1つ設定し、「造形的な見方・考え方を働かせる」教材を作成して、題材を提案することができる。
授業科目の概要	(村田担当 4 回) 映像をもって、美術教育に活用できる方法を計画書でまとめる。 (野村担当 11回) 現場の授業をいくつか体験し、造形的な・見方考え方を働かせ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を深める題材を構想して一場面で用いる教材を作成する。お互いの題材のねらいと授業の流れの説明を受けて教材を使った一場面の授業を体験して意見交換し、自分の作成した題材を検討し直してまとめる。
授業計画	1 美術教育と映像 (村田 担当) 村田担当回の概要紹介。美術教育における映像素材のあり方について考える。映像とはどのような表現か。全般的に考える。 2 美術教育と映像 (村田担当) 美術教育における映像素材の撮影、編集、管理について。 3 美術教育と映像 (村田 担当) 美術教育と映像 美術作品全般での、著作権の問題から、映像を用いた美術教育での扱いまで。 4 美術教育と映像 (村田 担当) 美術教育と映像 音楽、イメージ、言葉、映像により解体すること。美術教育により、世界を豊かに認識すること。 5 美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 美術の授業改善の視点について ①野村担当回の概要紹介。美術教育の絵画・彫刻、デザイン分野の授業づくりについて、育成すべき資質・能力の三つの柱から授業改善の視点を理解する。シラバスと題材について、「知識・技能」をどのように積み上げ、各学年に応じた「思考力、判断力、表現力」を授業の中で展開できるかを考える。 6 美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 現場の授業例を体験し授業デザインを考える ②デザインの分野の題材の例を実際に体験した後、題材を構想して授業の一場面に使う教材を考える。 7 美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 絵画の授業改善の視点について ③絵画の分野の題材の例を実際に体験し、学びのつながりと題材のねらいについて考える。 8 美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 現場の授業例を体験し絵画の題材を考える ④絵画の題材を考え、意見交換から得た改案を参考にして内容を深める。 9 美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 絵画の教材を考える ⑤作成した絵画の題材の授業の一場面に使う教材を考え、意見交換から得た改案を参考にして内容を深める。 10 美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 立体の授業改善の視点について ⑥立体（彫刻や工芸）の題材の例を実際に体験し、学びのつながりと題材のねらいについて考える。 11 美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 現場の授業例を体験し立体の題材を考える ⑦立体（彫刻や工芸）の題材を考え、意見交換から得た改善を参考にして内容を深める。 12 美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 立体の教材を考える ⑧作成した立体（彫刻や工芸）の題材の授業の一場面に使う教材を考え、意見交換から得た改案を参考にして内容を深める。

	13美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 題材案の意見交換 ⑨作成してきた題材(絵画・彫刻・デザインの分野から選択)の説明と教材を使った授業の一場面を発表し合い、意見交換する。自分の題材と教材の改善点を理解する。 14美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) 授業デザインを完成させる(提出) ⑩題材案と教材の内容を改善し、一題材の授業デザインを完成させる。 15美術教育と映像Ⅳ (野村 担当) まとめ ⑪まとめとして、再度、美術教育のねらいと生徒の学びのつながりを考えた授業づくりについての視点を押さえる。
授業時間外の学習	(村田担当 4 回) 撮影、編集。授業内で紹介した資料を読む。 (野村担当 11回) 題材案と必要な教材を作成してくる。
テキスト	(村田担当 4回) NHK 高校講座「美術」映像回 https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/bijutsu/archive/chapter018.html
参考書・参考資料等	(村田担当 4 回) 「映像表現のプロセス」授業内で紹介します。造形大学図書館にもあります。購入の必要はありません。 (野村担当 11回) 授業内で資料を紹介します。各自教材作成に必要な材料等は持参してください。
履修上の注意	(村田担当 4 回) 演習は授業時間外に課題となる回もあるので、講義中にノートをとってください。 (野村担当 11回) グループ活動が比較的多いため、欠席があると活動自体に支障がおきます。極力、欠席をしない、あるいは授業時間外で補う事。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	(村田担当 4 回) 授業態度、出席、コメントシート 30% 演習成果物 40% 最終レポート 30% (野村担当 11回) 出席、授業での活動状況、レポートや教材開発をもって意欲関心、考察力、表現力を総合的に評価する。
課題に対するフィードバックの方法	(村田担当 4 回) 授業内でコメントシートをとりあげる。オフィスワークでの質疑応答。 (野村担当 11回) お互いの授業を受けて意見交換する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	授業の具体的な指導場面を実習的な形で実施するため、教職課程選択の学生は、極力、履修が望ましい。特に、教育実習前の3年生での選択が適切。

講義科目名称： 教職概論

授業コード： L177

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
アズミ ムクリサフ			
科目ナンバリング：1L601S			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	教職のあるべき姿、および現代社会での役割
授業の達成目標	教育課題を理解し、教職のありかたと役割を主体的に考えること。
授業科目の概要	生徒の学校不適応の増加やいじめの背景に、教員の指導力不足という指摘があり、現在、教員の「専門職性」が問われている。これからの教員にはどのような能力が求められているかを、教育の多様な機能から多面的に考察する。 そこで、現在「開かれた学校」への要請がある中で、教員にはより広い視野とともに公共の場をつくりだす一員としての自覚と意欲が求められる。新しい時代教育観、教師論・教員像を考えると同時に、その資質とスキルを養成する必要がある。 講義で取り扱ういくつかの考察を通じて、能動的主体的に学習し、積極的に子どもたちや同僚、社会と関わる能力を獲得できることを目指す。
授業計画	第1回 授業内容 ガイダンス（授業の概要・注意事項・成績評価についての説明） 第2回 授業内容 教育の機能と教師の果たすべき役割①（成長・発達とは何か） 第3回 授業内容 教育の機能と教師の果たすべき役割②（教育とは何か） 第4回 授業内容 教員免許についての概要と学校制度における教員について（教育基本法・学校教育法などの法制度を含む） 第5回 授業内容 教員に求められる資質能力について（養成・採用・研修についてを含む） 第6回 授業内容 教育課程について（各学校段階の学習指導要領についてを含む） 第7回 授業内容 組織としての学校・教師①（チーム学校について） 第8回 授業内容 組織としての学校・教師②（懲戒権と体罰について） 第9回 授業内容 組織としての学校・教師③（公務員としての教師の服務規定について） 第10回 授業内容 組織としての学校・教師④（教師の労働問題と働き方改革について） 第11回 授業内容 学級経営について①（いじめ対応、学校安全管理について） 第12回 授業内容 学級経営について②（マイノリティへの対応について） 第13回 授業内容 学級経営について③（子どもの貧困問題について） 第14回 授業内容 学級経営について④（児童虐待について） 第15回 授業内容 学級経営について⑤（家庭との連携、現代日本の家族構造について）
授業時間外の学習	配布したレジュメと資料、講義内容を復習する。その上で、自分が教師として現場に立ったときのイメージづくりと対応策を考える。
テキスト	スライドと配布プリントをもとに授業を進める。
参考書・参考資料等	講義の中で適宜配布、指示する。
履修上の注意	大学の規定に基づき、講義への出席日数が不足した場合には履修を認めない。出席の確認にはリアクションペーパーを用いる。

	私語など他の学生の学習に支障をきたす行いが見られ、注意に従わない場合は履修を認めない。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点として出席（リアクションペーパー）10%、レポート（小レポート含む）90%。
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーをもとに、毎回の授業の冒頭で前回の授業の疑問点に回答する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	講義にある実例でのシミュレーション考察を通じて、能動的主体的に学習できる。その結果、芸術科目の専門性を実際の教育に生かせる視野を持つことができる。また、積極的に子どもたちや同僚，社会と関わる能力を獲得できる。

講義科目名称： 教育原理

授業コード： L165

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：1L602S			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	教育に関する基礎的な概念を理解し、教育の歴史、思想の展開を理解する。
授業の達成目標	教育とりわけ学校教育が果たす人間の成長と社会の進歩への役割を理解する
授業科目の概要	人間及び社会にとって教育がなぜ必要なのか、近代の教育がどのようにして成立したのか、今日の教育目的、現在の教育が抱える諸問題について学ぶ。
授業計画	第1回 授業内容 教育とは何かー人間にとっての教育の意義 第2回 授業内容 教育とは何かー社会にとっての教育の意義 第3回 授業内容 公教育成立以前の教育 第4回 授業内容 公教育成立と公教育を支える思想 第5回 授業内容 近代学校と教育 第6回 授業内容 教育に関する代表的思想（近代） 第7回 授業内容 教育に関する代表的思想（現代） 第8回 授業内容 学制序文と教育勅語 第9回 授業内容 1947年教育基本法 第10回 授業内容 2006年教育基本法 第11回 授業内容 子どもの学習権と教育を受ける権利 第12回 授業内容 子どもをめぐる諸問題 第13回 授業内容 学校・教職員をめぐる諸問題 第14回 授業内容 教育改革をめぐる諸問題 第15回 授業内容 まとめ
授業時間外の学習	授業関連資料（配布したプリントおよびTeamsにアップした資料）を読む。授業スライドを整理する。毎回、フォームズで授業に関連したレポートを提出する。
テキスト	使用しない
参考書・参考資料等	授業時に指示
履修上の注意	5 回欠席（遅刻も含む）すると欠多＝失格となる。随時、レポートの提出を求める。授業への出席、レポートの提出が条件。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	期末試験（筆記試験またはレポート）60%、レポート及び平常点40%

課題に対する フィードバックの 方法	授業アンケートのコメント欄に記載する。
卒業認定・学位授 与の方針と当該授 業科目との関連	教員志望者にとって必要な教育の基礎概念を獲得する。

講義科目名称： 発達心理学

授業コード： L186

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
胡 琴菊			
科目ナンバリング：2L603S			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	人間発達の全体像を探る
授業の達成目標	乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期といった生涯発達の様々な時期の特徴を理解できる。知能、思考、感情、人間関係など人間の様々な機能の発達の過程を理解できる。
授業科目の概要	発達とは一般に子どもが生まれ、大人になる過程での変化を指し、これには身長や体重、運動機能、知能や思考、感情、人間関係などの側面が含まれる。近年は生涯発達心理学の視点から成人期や老年期の変化をも捉えることが一般的になっている。日常生活、教育、医療、対人援助・支援においても発達の視点は欠かすことができない。授業では誕生から死に至る過程について、生涯発達心理学の観点から理解することを目的とする。
授業計画	第1回 イントロダクション 授業時間外の学習：発達とは何かについて理解する 第2回 発達の基礎理論（発達段階・発達課題・発達要因） 授業時間外の学習：発達段階、発達課題、発達理論について理解する 第3回 学習の原理（学習のメカニズム・学習諸相） 授業時間外の学習：学習のメカニズムについて理解する 第4回 乳児期の心理（心身機能の発達） 授業時間外の学習：愛着・認知発達の基礎について理解する 第5回 乳児期の学習過程（人間関係などの環境的要因） 授業時間外の学習：表象の獲得について理解する 第6回 幼児期の心理（心身機能の発達） 授業時間外の学習：言語の獲得やコミュニケーションの発達を理解する 第7回 幼児期の学習過程（人間関係などの環境的要因） 授業時間外の学習：社会性の発達(遊びの発達等)について理解する 第8回 児童期の心理（心身機能の発達） 授業時間外の学習：知的機能(思考や記憶等)の発達について理解する 第9回 児童期の学習過程（人間関係などの環境的要因） 授業時間外の学習：教室環境での発達について理解する 第10回 青年期の心理（心身機能の発達） 授業時間外の学習：青年期の心身機能の発達について理解する 第11回 青年期の学習過程（人間関係などの環境的要因） 授業時間外の学習：アイデンティティの統合について理解する 第12回 成人期の心理（心身機能の発達） 授業時間外の学習：成人期の心身機能の発達について理解する 第13回 成人期の学習過程（人間関係などの環境的要因） 授業時間外の学習：他者・社会との関わりについて理解する 第14回 成人期以降の心理（心身機能の発達） 授業時間外の学習：中高年期の心身機能の発達について理解する 第15回 成人期以降の学習過程（人間関係などの環境的要因） 授業時間外の学習：中高年期の人生の折り返し点からの発達について理解する
授業時間外の学習	毎回授業の時間外では、ノートと資料等をもとに、授業内容を復習しながら、どのような知識(概念や理論等)を学んだかを説明し、そして知識を発展させ、日々の生活にどのように役に立つのか、といった小レポートを書く。
テキスト	適宜プリントを授業内で配布する。
参考書・参考資料等	随時授業中に紹介する。
履修上の注意	授業中は私語や携帯電話などのマナーを守って他の受講生の迷惑にならないよう受講して欲しい。授業内容と他の心理学科目、自身の生活や経験したこと、自分・人間・社会がどのように関わり合っているのかを結びつけて考える姿勢を期待する。
人数制限、必要スキル	

授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	講義への積極的参加度・小レポート70％，定期試験30％等により総合的評価する。
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケート結果にコメントを入れる。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	生涯発達を横断した視野を持ち，積極的に人や社会と関わる能力を獲得できるようになる。

講義科目名称： 教育制度論

授業コード： L171

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：3L604S			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	現代日本の教育と教育行政
授業の達成目標	戦後教育(行政)改革の原点を理解し、今日の教育と教育行政の問題を考えることができるようになること。
授業科目の概要	戦後教育改革の経過を概説し、戦後日本の教育理念、学校制度、教育行政等の特徴をまとめる。これに続き、今日の教育制度改革の概要と問題点等を検討していく。
授業計画	第1回 授業内容 ガイダンス 授業内容の説明 第2回 授業内容 戦前日本の教育（制度）の特徴 第3回 授業内容 戦後教育改革の始まり 第4回 授業内容 戦後教育改革の展開 第5回 授業内容 日本国憲法と教育 第6回 授業内容 主要な教育改革立法について 第7回 授業内容 1947年教育基本法の内容とその意義(1) 第8回 授業内容 1947年教育基本法の内容とその意義(2) 第9回 授業内容 2006年教育基本法の内容とその意義 第10回 授業内容 学校制度の歴史と類型－学校の起源 第11回 授業内容 学校制度の歴史と類型－単線型・複線型 第12回 授業内容 教育法の体系について 第13回 授業内容 今日の教育改革論について－多様化・能力主義政策，新自由主義政策 第14回 授業内容 子どもの権利をめぐる国際条約について 第15回 授業内容 まとめ
授業時間外の学習	授業関連資料（配布したプリントおよびTeamsにアップした資料）を読む。授業スライドを整理する。
テキスト	使用しない
参考書・参考資料等	『テキスト教育と教育行政』（勁草書房）、『教育実践と教職員』（大学教育出版）
履修上の注意	5 回欠席（遅刻も含む）すると失格。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	期末試験（筆記試験またはレポート）60%、レポート・平常点40%

課題に対する フィードバックの 方法	授業アンケートのコメントで回答する。
卒業認定・学位授 与の方針と当該授 業科目との関連	教職を希望するものに必要な教育制度に関する理解を深める。

講義科目名称： 美術科教育法 I

授業コード： L187

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	必修
担当教員			
小笠原 文			
科目ナンバリング：3L606S			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	学習指導要領の学習と理解
授業の達成目標	中学校美術科及び高等学校芸術科（美術）の教育目標・教育内容を理解するとともに、学校教育における美術科の存在意義を探究しながら、美術科の学習指導法の基礎となる知見を身につけることができる。
授業科目の概要	本授業では、美術と教育について多角的な視点から学修し、中学校・高等学校における美術教育に携わる資質と意欲および実践知を育成する。また、学習指導要領の目標や内容を理解し、指導計画を立て、授業を行う実践力を養い、理論と実践の双方からの美術教育の理解を目的とする。 美術館等でのワークショップを行う場合がある。（詳細については授業時に指示）
授業計画	第1回 授業内容：ガイダンス 授業の方法と評価について 授業計画の説明 美術の先生の役割とは 第2回 授業内容：美術教育の理念 芸術と教育の関係性 「美術を教える」について考える 第3回 授業内容：美術教育の歴史と意義 学習指導要領にみる美術科の変遷と現状について 第4回 授業内容：中学校美術科の目標と内容 授業時間外の学習：テキスト(中学校学習指導要領解説 美術編)の第2章を読んでくる 第5回 中学校美術科 各学年の目標及び内容 授業時間外の学習：テキスト(中学校学習指導要領解説 美術編)の第3章を読んでくる 第6回 授業内容：中学校美術科題材の検討 絵や彫刻 中学校美術の教科書（日本文教出版）を読んでくる 第7回 授業内容：中学校美術科題材の検討 デザインや工芸 中学校美術の教科書（日本文教出版）を読んでくる 第8回 授業内容：中学校美術科題材の検討 鑑賞教育の多様性と方法論（1） 第9回 授業内容：高等学校美術科題材の検討 鑑賞教育の多様性と方法論（2） 第10回 授業内容：高等学校学習指導要領の概説（1） 授業時間外の学習：テキスト(高等学校学習指導要領解説 芸術編)の第4節 美術Ⅰを読んでくる 第11回 授業内容：高等学校学習指導要領の概説（2） 授業時間外の学習：テキスト(高等学校学習指導要領解説 芸術編)の第5節 美術Ⅱを読んでくる 第12回 中学校美術科 指導計画の作成と内容の取り扱い 授業時間外の学習：テキスト(中学校学習指導要領解説 美術編)の第4章を読んでくる 第13回 授業内容：年間指導計画の作成（1） 授業時間外の学習：年間指導計画の作成準備 第14回 授業内容：年間指導計画の作成（2） 授業時間外の学習：年間指導計画の作成完成提出準備 第15回 授業内容：まとめ 授業時間外の学習：レポート等提出物の再確認
授業時間外の学習	学内外における美術実技及び理論の学びについて、教える立場から再検討する。
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説，美術編，文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説，芸術（音楽 美術 工芸 書道）編，文部科学省 美術資料 秀学社 日本文教出版 中学校美術1，2・3上，2・3下（令和3年） 日本文教出版 高校生の美術1,2,3（令和3年）
参考書・参考資料等	授業時に、参考資料・プリント等配布

履修上の注意	5回欠席（遅刻も含む）すると欠多=失格。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点 30% レポート等提出物 70%
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケート結果にコメントを入れる。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教職課程の必修科目です。

講義科目名称： 美術科教育法Ⅱ

授業コード： L188

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	必修
担当教員			
小笠原 文			
科目ナンバリング：3L607S			
添付ファイル			

授業形態	講義																														
科目区分	資格関連科目																														
授業のテーマ	中学校美術科及び高等学校芸術科（美術）の指導計画作成と教材研究，模擬授業																														
授業の達成目標	中学校美術科及び高等学校芸術科（美術）の教育目標・教育内容を理解するとともに、学習指導要領に沿った授業計画・指導案を作成することができる。作成した指導計画と教材を用いて模擬授業を行い、それらを検証・改善することができる。																														
授業科目の概要	本授業では、中学校美術科及び高等学校芸術科（美術）の授業を計画し、実践するための基礎的な知識・技能を学修する。美術教育の理論と使命をよく理解した上で、学習指導要領に基づいた授業計画・指導案を立て、模擬授業を行い、検証することで、より精鋭された授業をデザインする能力の育成を目的とする。美術館等でのワークショップを行う場合がある（詳細については授業時に指示）																														
授業計画	<table><tr><td>第1回</td><td>授業内容 美術科の評価 授業時間外の学習：ノートの整理、配布物の学習</td></tr><tr><td>第2回</td><td>授業内容 授業計画及び指導案について 授業時間外の学習：授業ノート・配布物を基に授業内容を学習する</td></tr><tr><td>第3回</td><td>授業内容 教材研究 授業資料作成 授業時間外の学習：教材研究作成準備</td></tr><tr><td>第4回</td><td>授業内容 教材研究 技法と素材 授業時間外の学習：教材研究作成完成、提出準備 指導案作成準備</td></tr><tr><td>第5回</td><td>授業内容 4 年生の模擬授業見学（1） 授業時間外の学習：指導案作成準備</td></tr><tr><td>第6回</td><td>授業内容 4 年生の模擬授業見学（2） 授業時間外の学習：指導案作成準備</td></tr><tr><td>第7回</td><td>授業内容 4 年生の模擬授業見学（3） 授業時間外の学習：指導案作成準備</td></tr><tr><td>第8回</td><td>授業内容 4 年生の模擬授業見学（4） 授業時間外の学習：指導案作成準備</td></tr><tr><td>第9回</td><td>授業内容 指導案作成 授業時間外の学習：模擬授業の準備</td></tr><tr><td>第10回</td><td>授業内容 指導案に基づく模擬授業（1） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備</td></tr><tr><td>第11回</td><td>授業内容 指導案に基づく模擬授業（2） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備</td></tr><tr><td>第12回</td><td>授業内容 指導案に基づく模擬授業（3） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備</td></tr><tr><td>第13回</td><td>授業内容 指導案に基づく模擬授業（4） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備</td></tr><tr><td>第14回</td><td>授業内容 模擬授業の検討と指導案再構築、作成 授業時間外の学習：教材研究・学習指導案の作成提出準備</td></tr><tr><td>第15回</td><td>授業内容 まとめ 授業時間外の学習：レポート等提出物の再確認 アンケート記入</td></tr></table>	第1回	授業内容 美術科の評価 授業時間外の学習：ノートの整理、配布物の学習	第2回	授業内容 授業計画及び指導案について 授業時間外の学習：授業ノート・配布物を基に授業内容を学習する	第3回	授業内容 教材研究 授業資料作成 授業時間外の学習：教材研究作成準備	第4回	授業内容 教材研究 技法と素材 授業時間外の学習：教材研究作成完成、提出準備 指導案作成準備	第5回	授業内容 4 年生の模擬授業見学（1） 授業時間外の学習：指導案作成準備	第6回	授業内容 4 年生の模擬授業見学（2） 授業時間外の学習：指導案作成準備	第7回	授業内容 4 年生の模擬授業見学（3） 授業時間外の学習：指導案作成準備	第8回	授業内容 4 年生の模擬授業見学（4） 授業時間外の学習：指導案作成準備	第9回	授業内容 指導案作成 授業時間外の学習：模擬授業の準備	第10回	授業内容 指導案に基づく模擬授業（1） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備	第11回	授業内容 指導案に基づく模擬授業（2） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備	第12回	授業内容 指導案に基づく模擬授業（3） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備	第13回	授業内容 指導案に基づく模擬授業（4） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備	第14回	授業内容 模擬授業の検討と指導案再構築、作成 授業時間外の学習：教材研究・学習指導案の作成提出準備	第15回	授業内容 まとめ 授業時間外の学習：レポート等提出物の再確認 アンケート記入
第1回	授業内容 美術科の評価 授業時間外の学習：ノートの整理、配布物の学習																														
第2回	授業内容 授業計画及び指導案について 授業時間外の学習：授業ノート・配布物を基に授業内容を学習する																														
第3回	授業内容 教材研究 授業資料作成 授業時間外の学習：教材研究作成準備																														
第4回	授業内容 教材研究 技法と素材 授業時間外の学習：教材研究作成完成、提出準備 指導案作成準備																														
第5回	授業内容 4 年生の模擬授業見学（1） 授業時間外の学習：指導案作成準備																														
第6回	授業内容 4 年生の模擬授業見学（2） 授業時間外の学習：指導案作成準備																														
第7回	授業内容 4 年生の模擬授業見学（3） 授業時間外の学習：指導案作成準備																														
第8回	授業内容 4 年生の模擬授業見学（4） 授業時間外の学習：指導案作成準備																														
第9回	授業内容 指導案作成 授業時間外の学習：模擬授業の準備																														
第10回	授業内容 指導案に基づく模擬授業（1） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備																														
第11回	授業内容 指導案に基づく模擬授業（2） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備																														
第12回	授業内容 指導案に基づく模擬授業（3） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備																														
第13回	授業内容 指導案に基づく模擬授業（4） 授業時間外の学習：学習指導案の作成提出準備 模擬授業の準備																														
第14回	授業内容 模擬授業の検討と指導案再構築、作成 授業時間外の学習：教材研究・学習指導案の作成提出準備																														
第15回	授業内容 まとめ 授業時間外の学習：レポート等提出物の再確認 アンケート記入																														
授業時間外の学習	学内外における美術実技及び理論の学びについて、教える立場から再検討する。																														
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説，美術編，文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説，芸術（音楽 美術 工芸 書道）編，文部科学省 美術資料 秀学社 日本文教出版 中学校美術1，2・3上，2・3下 （令和3年） 日本文教出版 高校生の美術1,2,3 （令和3年）																														
参考書・参考資料等	授業時に、参考資料・プリント配布																														

履修上の注意	5回欠席（遅刻も含む）すると欠多=失格。 4年生の模擬授業見学4回は集中講義として実施する。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点30% レポート等提出物70 %
課題に対するフィードバックの方法	授業のまとめの時、またはアンケート結果にコメントを示す。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教職課程の必修科目です。

講義科目名称： 美術科教育法Ⅲ

授業コード： L189

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	選択必修
担当教員			
田内 公望			
科目ナンバリング：3L608C			
添付ファイル			

授業形態	講義と授業内容理解、導入のための実技		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	美術科の多様な指導方法と評価の方法		
授業の達成目標	美術科の指導において主体的、対話的な授業を作り上げるための様々な授業の実施形態についての実践的能力を獲得する。		
授業科目の概要	学校現場で行われている様々な美術関連の授業の形態を学び、実際にそれらを体験し、教師側として、どのようなタイミングで声をかけたりするのかを学ぶ。		
授業計画	第1回	授業内容 ガイダンス(美術の様々な授業形態について)授業計画と内容の説明	
	第2回	授業時間外の学習：プリント、ノートの整理 授業内容 美術教育の現状（学習指導要領での位置づけ、変遷）	
	第3回	授業時間外の学習：プリント、ノートの整理 授業内容 絵画の教材研究（教材のねらいと授業展開）	
	第4回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 自画像(鉛筆)の教材研究（教材のねらいと授業展開）	
	第5回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 自画像(着彩)の教材研究（指導方法について）	
	第6回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 日本の伝統的美術について 日本画の教材研究（教材のねらいと授業展開）	
	第7回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する 授業内容 日本画の教材研究（指導方法について）	
	第8回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 日本画の教材研究（指導方法について）	
	第9回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 デザイン、パッケージの教材研究(教材のねらいと授業展開)	
	第10回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 デザイン、パッケージの教材研究(指導方法について)	
	第11回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 鑑賞の教材研究（教材のねらいと授業展開、指導方法について）	
	第12回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 日本の伝統的美術について 彫刻の教材研究（教材のねらいと授業展開）	
	第13回	授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 紙による立体構成の教材研究②（教材のねらいと授業展開、指導方法について）	

	第14回 授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 版画の教材研究（教材のねらいと授業展開、指導方法について） 第15回 授業時間外の学習：授業時の課題を実施する。 授業内容 美術科の評価について 授業時間外の学習：プリント、ノートの整理 。
授業時間外の学習	課題に向けての準備、調査を指示する。
テキスト	特になし
参考書・参考資料等	中学・高校学習指導要領、その他授業時に指示する。
履修上の注意	講義だけでなく、実技授業導入のための実行う行うため、準備する画材の説明があるので注意すること。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	授業でのレポートや教材研究提出物等をもとに評価する。
課題に対するフィードバックの方法	授業のまとめのときおよび課題の返却時にコメントを示す。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教師を志望する学生が、自分の専攻分野以外の、幅広い造形表現活動の基礎能力、学習内容、指導方法などを養い、教師ととして生徒へのコミュニケーション能力を養う。

講義科目名称： 道徳教育論

授業コード： L184 L375

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：3L609S			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	学校における道徳の教育
授業の達成目標	道徳教育の目標と道徳の授業の進め方を理解し、教員としての実践的能力を高める
授業科目の概要	中学校での道徳教育はどのような形態、目的で行われるかを考え、さらに学校教育における道徳教育の具体的な課題についても考える
授業計画	第1回 授業内容 1 ガイダンス 第2回 授業内容 2 教育課程における道徳の位置付け 第3回 授業内容 3 学習指導要領の内容 第4回 授業内容 4 戦前日本の道徳教育 第5回 授業内容 5 戦後教育改革と道徳教育 第6回 授業内容 6 道徳特設への経過 第7回 授業内容 7 特設道徳の内容と問題 第8回 授業内容 8 教育基本法 of 教育目的・目標 第9回 授業内容 9 いじめ問題を考える・・・いじめ自殺事件から 第10回 授業内容 10 いじめはなぜ起きるのか 第11回 授業内容 11 いじめをなくすための基本 第12回 授業内容 12 いじめに対する指導方法 第13回 授業内容 13 道徳の指導方法 第14回 授業内容 14 道徳の副教材を考える 第15回 授業内容 15 道徳の授業例
授業時間外の学習	授業関連資料（配布したプリントおよびTeamsにアップした資料）を読む。授業スライドを整理する。
テキスト	中学校学習指導要領（2017年改訂）
参考書・参考資料等	授業時に指示
履修上の注意	5回欠席（遅刻も含む）すると欠多＝失格となる。グループ討論に積極的に参加すること。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	期末試験（筆記試験またはレポート）60%、中間レポート、授業への参加状況40%

課題に対する フィードバックの 方法	授業アンケートのコメントで行う。
卒業認定・学位授 与の方針と当該授 業科目との関連	教職科目

講義科目名称： 特別活動の指導法

授業コード： L353

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
坂野 愛実			
科目ナンバリング：2L610S			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	特別活動による個人・集団の成長発達保障とその方法
授業の達成目標	本授業では、次の5点を到達目標とします。 1. 日本の教育が抱える問題・課題を見つけ出し、また、理解し、その解決へ向けた方策を提示するための力を身につけること。 2. 特別活動は、個人および集団の成長発達を保障する活動であり、より豊かな学校生活をつくり出すだけでなく、社会へ主体的に参加する機会を保障することにもつながることを理解すること。 3. 特別活動における教師の役割および指導方法を理解すること。 4. 特別活動をより深く考察するために必要な情報を収集する方法とその活用の仕方を身につけること。 5. 上記を踏まえ、自分の考えをまとめ、提示できるようになること。
授業科目の概要	本授業では、個人および集団の成長発達を保障する特別活動に関し、学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、家庭・地域・関係機関と連携した活動の各分野の教育的意義および日本の教育における課題を具体的事例から考え、理解を深めることを内容としています。さらに、グループおよび個々の活動としてワークシートや授業計画の作成に取り組んでもらうなかで、教育的活動に係る実践的な力（指導法）を身につけ、また、教員の同僚性につながる能力を育んでいきます。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 本授業の概要、ねらい、評価、進め方などについて説明を行います。また、そのなかでみなさんの経験などから特別活動にはどのような特質があるのかを考えます。 第2回 教育課程における特別活動の位置付け（1） 学校生活の流れや年間行事を確認しながら特別活動の教育的意義を考えます。 第3回 教育課程における特別活動の位置付け（2） 学習指導要領の変遷および第2回授業の内容を踏まえ特別活動の目標・内容・意義を整理します。 第4回 特別活動の指導法（1） 指導計画の作成・指導・評価・組織的取組について整理し、今後の授業で取り扱う特別活動の各分野を扱う上で必要となる基本的視点を身につけます。 第5回 学級活動・ホームルーム活動の意義と課題 特別活動の一分野である学級活動・ホームルーム活動の意義と課題について、具体例を見ながら考え、整理していきます。ここでは、特に、話し合いの場をいかに整えていくかに着目します。 第6回 学級活動・ホームルーム活動の実践 第5回授業の要点を確認した上で、3～5人のグループを作り、ワークシートに取り組んでもらいます。 第7回 生徒会活動の意義と課題 特別活動の一分野である生徒会活動の意義と課題について、具体例を見ながら考え、整理していきます。ここでは、特に、生徒の自治活動と教員のあり方に着目します。 第8回 生徒会活動の実践 第7回授業の要点を確認した上で、3～5人のグループを作り、ワークシートに取り組んでもらいます。 第9回 学校行事の意義と課題 特別活動の一分野である学校行事の意義と課題について、具体例を見ながら考え、整理していきます。 第10回 学校行事の実践 第9回授業の要点を確認した上で、3～5人のグループを作り、ワークシートに取り組んでもらいます。 第11回 家庭・地域・関係機関と連携した活動の意義と課題（1） 人権・主権者教育を中心に地域社会に対する問題意識を集団でいかに深めていくか、その意義と課題を考え、整理していきます。 第12回 家庭・地域・関係機関と連携した活動の意義と課題（2） キャリア教育を中心に地域産業や職業に対する学びを集団でいかに深めていくか、その意義と課題を考え、整理していきます。 第13回 家庭・地域・関係機関と連携した活動の実践 第11回・第12回授業の要点を確認した上で、3～5人のグループを作り、ワークシートに取り組んでもらいます。 第14回 特別活動の指導法（2） 各自テーマを選択し、指導計画を作成してもらいます。 第15回 まとめと試験 ― 特別活動の豊かさを求めて

	これまでの授業を踏まえ、特別活動が有する教育的意義を確認し、その実現のために必要な条件整備のあり方や課題を整理した上で、学期末試験を実施します。
授業時間外の学習	各回授業において次回の授業に向け、文献などを読み、その内容を理解すると共に質問も整理してもらうこと、さらに、グループディスカッションや「本日の課題」に係る自分の考えをまとめてもらうことを授業前後に行ってもらいます（2時間）。また、授業後には、「本日の課題」など課題解説を踏まえ、その内容を復習すると共に学期末試験に向けた学習として授業内に指定した用語などに関する要点整理などを行ってください（2時間）。
テキスト	指定しません。 各授業では、授業の内容をまとめたプリント（レジュメ）およびそれに関連する資料をまとめたプリント（資料）を配布します。両プリントにおいて参考文献・資料をその都度、提示していきます。 *両プリントは、Teamsの授業チーム内ファイルにアップロードし、データとしてみなさんが入手できるようにもしていく予定です。
参考書・参考資料等	指定しません。
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない欠格条件にあたりますので、注意してください。また、その他の点につきましては、第1回授業時に説明します。
人数制限、必要スキル	特にありません。
授業で使用するソフト等	特にありません。
成績評価の方法・基準	学期末試験（50%）、平常点（50%）により評価を行います。 平常点は、学修態度として主にリアクションペーパーとワークシートにおいて各時間の学習課題と内容を把握できているか、また、それに対する自分の考えをわかりやすくまとめることができているかを確認します。
課題に対するフィードバックの方法	授業の終わりに書いてもらうリアクションペーパーにおいて「本日の課題」を実施する場合は、添削・採点を行い、翌週以降の授業で返却します。また、返却した授業回のはじめに解説を行います。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	特別活動の指導に関する基本的な能力および自分の考えや思いを他者に伝え、また、他者の考えや思いを聴き取るなどのコミュニケーション能力を養います。

講義科目名称： 教育方法論（教育課程の意義と構成を含む） 授業コード： L174

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：2L611S			
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	授業を成立させる理論と実践		
授業の達成目標	教育課程の変遷を理解し、今日求められている授業についての理解を深める		
授業科目の概要	教育実践能力の向上をめざし、学習指導要領が目指そうとしている人間像、学力観、教育方法観を検討し、さらに、具体的な学級指導の方法を学ぶ。		
授業計画	第1回 授業内容 ガイダンスー授業の目標・計画（シラバス）の説明） 第2回 授業内容 教科としての美術----専門教育ではない普通教科としての美術の位置を考える 第3回 授業内容 教育課程について 1 ----教育課程とは何か、教育課程編成の仕組み 第4回 授業内容 教育課程について 2 ・ ・ ・ 教育課程の編成原理 第5回 授業内容 戦後における学習指導要領の展開過程(1)----戦後教育改革と1947年版学習指導要領 第6回 授業内容 戦後における学習指導要領の展開過程(2)----官報告示と教育の現代化、 第7回 授業内容 戦後における学習指導要領の展開過程(3) ・ ・ ゆとり教育と新学力観 第8回 授業内容 2008・9年版 学習指導要領の特徴(1) ・ ・ 生きる力 第9回 授業内容 2008・9年版 学習指導要領の特徴(2) ・ ・ 新しい授業形態 第10回 授業内容 2017・2018年版学習指導要領の特徴(1) ・ ・ 社会に開かれた教育課程 第11回 授業内容 2017・2018年版学習指導要領の特徴(2) ・ ・ カリキュラムマネジメント 第12回 授業内容 教育評価を考える----指導要録と新学力観 第13回 授業内容 美術科の学習指導案について----その類型と作成について 第14回 授業内容 情報機器の活用 第15回 授業内容 学力問題		
授業時間外の学習	授業関連資料（配布したプリントおよびTeamsにアップした資料）を読む。授業スライドを整理する。		
テキスト	中学校学習指導要領（2017年改訂）		
参考書・参考資料等	授業時に指示する。		
履修上の注意	5回欠席（遅刻も含む）すると欠多＝失格となる。欠席者はその都度レポートを提出する。		
人数制限、必要スキル			
授業で使用するソフト等			
成績評価の方法・基準	期末試験（筆記試験またはレポート）60%、中間レポート及び授業への参加状況40%		

課題に対する フィードバックの 方法	授業アンケートのコメントで回答する。
卒業認定・学位授 与の方針と当該授 業科目との関連	教職科目

講義科目名称： 生徒指導・進路指導論

授業コード： L183 L371

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	必修
担当教員			
玉木 博章			
科目ナンバリング：3L613S			
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	生徒指導・進路指導のあるべき姿、および現代社会での役割		
授業の達成目標	生徒指導、進路指導の意義と原理を理解する。また、それをもとに現在の教育課題を解明し、教員の資質と役割を主体的に考える。		
授業科目の概要	学校内での生徒指導・進路指導は、生徒が将来に対する目的意識をもって主体的に自己の進路を選択して自己実現を図っていくものである。そのためには教師が生徒との信頼関係を築きつつ、生徒たちが自らの行動に対して自省しつつ将来に希望や目標を持てるような指導が求められる。よって、担任や顧問の裁量とともに責任が問われる領域である。 そこで、学校教育における生徒指導と進路指導の意義・目標についての理解を深める。また、具体的な展開・指導について、自らが計画・構成していくことができるようになることをめざす。		
授業計画	第1回 授業内容 ガイダンス（生徒指導・生活指導とは何か？歴史と比較） 第2回 授業内容 生徒指導・生活指導と貧困及び学力問題 第3回 授業内容 学習指導と生徒指導：教育課程における位置づけ（学習指導要領を含む） 第4回 授業内容 教科・特別の教科道徳・総合的学習の時間・特別活動における生徒指導（学習指導要領を含む） 第5回 授業内容 教育相談と生徒指導：児童・生徒の理解と特別なニーズを持つ対象への指導 第6回 授業内容 個人の発達と生徒指導：人間の発達と教育について 第7回 授業内容 生徒指導と進路指導①：キャリア教育の変遷（進路指導との比較） 第8回 授業内容 生徒指導と進路指導②：キャリア教育の理論と実践 第9回 授業内容 生徒指導の方法①：家庭・地域・関係機関との連携（チーム学校を含む） 第10回 授業内容 生徒指導の方法②：校則とハラスメント 第11回 授業内容 生徒指導の方法③：部活動と体罰 第12回 授業内容 問題行動への基本的理解と対応①：少年非行と愛着障害 第13回 授業内容 問題行動への基本的理解と対応②：いじめ（モデル別） 第14回 授業内容 問題行動への基本的理解と対応③：不登校 第15回 授業内容 現代社会における生徒指導・進路指導の重要性		
授業時間外の学習	毎回の講義で配布したレジュメと資料、講義内容を復習する。自分が教師として現場に立ったときのイメージづくりと対応策を考える。		
テキスト	照本祥敬・加納昌美『生活指導と学級集団づくり 中学校』高文研 ただし、なくてもできるように配布レジュメと資料を中心に授業を行う。		
参考書・参考資料等	文部科学省『生徒指導提要』平成 22 年 3 月 また、随時講義の中で配布、指示する。		
履修上の注意	本授業は参加型の授業ですので、授業と関係ない私語など他の学生の学習に支障をきたす行為が見られ、注意を受け入れない場合は履修を認めない。毎回の授業参加が出席点になります。		
人数制限、必要ス			

キル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点として出席時の発言50%、テスト50%。
課題に対するフィードバックの方法	授業後やSNSでのやりとりを通じて、授業時間冒頭でフィードバックする。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	講義にある実例でのシミュレーション考察を通じて、能動的主体的に学習できる。その結果、芸術科目の専門性を実際の教育に生かせる視野を持つことができる。また、積極的に子どもたちや同僚，社会と関わる能力を獲得できる。

講義科目名称： 教育相談

授業コード： L172 L374

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	2 単位	必修
担当教員			
衣笠 健作			
科目ナンバリング：3L614S			
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	心理学の基礎を学び、人(生徒・保護者)の心の声を聴き、理解、支援をする		
授業の達成目標	教育相談のスキルがますます重要になっていることを学び、児童生徒・保護者の心を理解するための基本的な知識（発達過程・精神疾患・法律など）や傾聴のスキルを習得する。また心を理解した上でどのように支援していくかを考える力をみにつける		
授業科目の概要	不登校・いじめ・非行などの問題行動が多様化、複雑化、重複化してきている教育現場において、教育相談が生徒指導の中心的な役割を担い、重要性が強調されている。児童生徒の心と体の発達の状況を適切に理解し、サインに気づき、よりよい、また個人の心理的特質をとらえた支援計画をたてるために、必要な心理学の基礎的な知識（カウンセリング技法、理論、発達など）と、チーム連携の大切さ、動き方について具体的・実践的な知識をみにつけていく。		
授業計画	第1回 授業内容 オリエンテーション・教育相談の必要性 - 今の多様性が求められる教育現場でおきていることを紹介 - 第2回 授業内容 教育相談とは① - 教育相談・生徒指導・学校臨床・カウンセリング・心理療法の相違や実際・心の理解や人の話を聴くということはどういうことかを学ぶ - 第3回 授業内容 教育相談とは② - 教育相談・生徒指導・学校臨床・カウンセリング・心理療法の相違や実際・心の理解や人の話を聴くということはどういうことかを学ぶ - 第4回 授業内容 エンカウンター - 自己理解と他者理解 - 課題についてグループでディスカッションをし、コミュニケーションのスキル、主張することの大切さ、その中から相手の価値観や自分の価値観の違いを感じ取る練習をする 第5回 授業内容 心の構造① - フロイト・ロジャーズ・ユング・行動療法 - さまざまな理論における心の捉え方、行動変容にいたるまでのプロセスやスキルを学ぶ 第6回 授業内容 心の構造② - パーソナリティ・特性論・類型論 - 性格とは何か、人格とは何かなどの諸理論を学ぶ 第7回 授業内容 子供の成長と発達① - エリクソンの発達段階・ピアジェの認知発達理論 - 心や思考が成長過程の中でどのようなプロセスを通して、段階的に形成されていくのか、現在の問題行動との関連などを学ぶ 第8回 授業内容 子供の成長と発達② - 児童期・思春期・青年期とは - 小学校～大学の期間におきる自我の芽生え、アイデンティティの形成にまつわる問題や課題を学ぶ 第9回 授業内容 子供の成長と発達③ - 子供の病理 - さまざまな要因で、児童生徒の発達に影響がおよび、心の不調が現れる。その現れ方や対処法などを学ぶ 第10回 授業内容 不登校・いじめ・非行・発達障害① - 基礎知識 - それぞれの統計・類型・実情などを学ぶ 第11回 授業内容 不登校・いじめ・非行・発達障害② - 危機介入・緊急支援・支援計画 - 介入のポイント、支援計画の立て方などを学ぶ 第12回 授業内容 不登校・いじめ・非行・発達障害③ - 実際と対応・支援 - 具体的なケースをグループディスカッションにより検討していく 第13回 授業内容 ロールプレイ① - 教育相談体験 - さまざまな場面を想定して、相談技術、傾聴スキルを学ぶ 第14回 授業内容 ロールプレイ② - 教育相談体験を振り返って -		

	第15回 授業内容 芸術療法 - 描画からみる発達段階・芸術を利用した支援や効果 - 定期試験
授業時間外の学習	配布資料をもとに復習 教育に関わるニュースなどに関心を持って調べる
テキスト	資料配布
参考書・参考資料等	改訂精神分析的な人格理論の基礎（馬場禮子著） 子供の発達障害と支援のしかたがわかる本（西永堅著）など
履修上の注意	人の意見を聴き、自分の意見を適切に主張するスキルを学ぶため、グループディスカッションなど、実際にコミュニケーションをとりながらの講義もあります。積極的に参加してください。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	筆記試験と授業における態度（出席・ロールプレイ・グループディスカッションへの積極的参加）
課題に対するフィードバックの方法	筆記試験と授業においてディスカッションを行い、最新の情報・知識を提供しながら、それぞれの考え方を深めあっていく。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	心理学の知識を土台に人の行動の背景を傾聴・想像し、それを相手に伝えるコミュニケーション能力を修得。生徒の心の成長を促し、行動変容への手助けを行える力を取得。

講義科目名称： 教育実習 I（事前・事後指導を含む）

授業コード： L166

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4 年次	1 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：4L615S			
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	教育実習への準備		
授業の達成目標	中学校、高等学校での円滑な教育実習ができるように事前に獲得すべき事柄を身につける		
授業科目の概要	教育実習の目的・意義、実習の具体的内容を学ぶ		
授業計画	第1回	授業内容 教育実習の目的と意義	
	第2回	授業内容 教育実習の概要	
	第3回	授業内容 教育実習の心得	
	第4回	授業内容 教材研究と授業構想に基づく指導案づくり	
	第5回	授業内容 教育実習記録、教育実習報告書の書き方	
	第6回	授業内容 美術および道徳の授業の進め方について	
	第7回	授業内容 教育実習報告会	
	第8回	授業内容 事後対応について	
	第9回	授業内容 指導案作成講座	
	第10回	授業内容 指導案作成講座	
	集中講義	模擬授業 各自、模擬授業を行う。	
授業時間外の学習	授業資料（プリントおよびTeamsにアップしたもの）を読むこと、授業スライドの整理		
テキスト	学習指導要領		
参考書・参考資料等	授業時に配布する。		
履修上の注意	この授業では、教育実習に参加する際の具体的かつ必要最低限のことを学習するので、遅刻・欠席は厳禁である。受講態度によっては、教育実習を中止する。開講日時は変更する場合があるので掲示に注意。模擬授業を集中講義形式で実施する。		
人数制限、必要スキル			
授業で使用するソフト等			
成績評価の方法・基準	毎回のレポート内容および模擬授業への参加状況		
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケートのコメントで回答する。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教職科目		

講義科目名称： 教育実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

授業コード： L167 L168 L169 L170

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中(随時)	4 年次	各 1 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：4L616C			
添付ファイル			

授業形態	演習
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	教育実習
授業の達成目標	実習校での教育実習を円滑に行うこと
授業科目の概要	実際の教育現場に教育実習生としておもむき、子どもの現状、教師の責務を目のあたりにし、教師としての力量を形成するよう指導を受ける。
授業計画	第1回 授業内容 実習校の指示により行う
授業時間外の学習	実習校の指示による。
テキスト	学習指導要領
参考書・参考資料等	なし
履修上の注意	教育実習に参加するにあたっては事前に実習校と連絡を取り、その指示に従うこと。実習開始前から体調管理を行うこと。履修条件として「教育実習Ⅰ」の履修が必要。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	実習校からの評価（60％）、教育実習報告書、実習記録、指導案（40％）などを総合して評価する。
課題に対するフィードバックの方法	後期の教職実践演習の時間に行う。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教職科目

講義科目名称： 教職実践演習（中・高）

授業コード： L179

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	4 年次	2 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：4L617S			
添付ファイル			

授業形態	演習		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	教育実習の振り返り，教員としての資質・能力の確認		
授業の達成目標	教員に必要な資質、能力を確認し、自らの課題を発見する		
授業科目の概要	教育実習を反省的に振り返り、教職課程の各科目および教育実習で学んだことを確認していく		
授業計画	第1回	授業内容 教職課程を履修して（これまでの学修についての総括）	
	第2回	授業時間外の学習：発表、配布物の学習から実習の課題を見つける。 授業内容 教育実習を振りかえる①（教職の意義や教員の役割を中心に）	
	第3回	授業時間外の学習：発表、配布物の学習から実習の課題を見つける。 授業内容 教育実習を振りかえる②（生徒に対する責任等について）	
	第4回	授業時間外の学習：発表、配布物の学習から実習の課題を見つける。 授業内容 教育実習を振りかえる③（教科指導について）	
	第5回	授業時間外の学習：発表、配布物の学習から実習の課題を見つける。 授業内容 職場の対人関係を考える（組織の一員として、保護者や地域社会との関係について）	
	第6回	授業時間外の学習：ノートの整理および配布物の学習 授業内容 生徒指導を考える（問題行動への対処およびその原因について）	
	第7回	授業時間外の学習：ノートの整理および配布物の学習 授業内容 学級経営を考える（担任の役割について、年間計画について）	
	第8回	授業時間外の学習：ノートの整理および配布物の学習 授業内容 学校に行けない生徒への指導（特別講師を予定）	
	第9回	授業時間外の学習：ノートの整理および配布物の学習 授業内容 中学・高校の現状と課題①（中学校の現場教師から）	
	第10回	授業時間外の学習：ノートの整理および配布物の学習 授業内容 中学・高校の現状と課題②（高校の現場教師から）	
	第11回	授業時間外の学習：ノートの整理および配布物の学習 授業内容 模擬授業①（美術分野）	
	第12回	授業時間外の学習：模擬授業の準備 授業内容 模擬授業②（デザイン・工芸分野）	
	第13回	授業時間外の学習：模擬授業の準備 授業内容 模擬授業③（道徳、特別活動）	
	第14回	授業時間外の学習：模擬授業の準備 授業内容	

	教員に必要な資質とは 第15回 授業時間外の学習：ノートの整理および配布物の学習 授業内容 今後の資質向上のための課題 授業時間外の学習：ノートの整理および配布物の学習
授業時間外の学習	実習中に作成した資料の確認。配布物の学習。
テキスト	中学校、高等学校学習指導要領
参考書・参考資料等	なし
履修上の注意	演習であるので、毎回出席することが条件である。一部、集中講義形式でも実施する。学外での教育関係の研究会などに参加することも求める。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	毎回の発言内容、模擬授業、レポートを総合して評価を出す。評価基準は、①教職の重要性、役割を理解しているかどうか②社会性、対人関係能力が付いているかどうか③生徒理解が的確か④美術・工芸の指導力があるかどうかである。
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケートのコメントで回答する。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教職科目

講義科目名称： 福祉体験Ⅰ

授業コード： L190

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年次	1 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：3L618S			
添付ファイル			

授業形態	講義
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	介護等体験の事前学習
授業の達成目標	介護等体験の意義と体験先施設について説明することができる
授業科目の概要	教員免許（中学校 1 種）取得希望者が介護等体験に備えるものである。介護等体験として出かける特別支援学校・社会福祉施設について役割と種類、体験先について学ぶ。
授業計画	第1回 授業内容 オリエンテーション 第2回 授業時間外の学習：障害児・福祉との関わりを振り返る 授業内容 「介護等体験」とは ①義務教育の課題 ②「介護等体験」の実際 第3回 授業時間外の学習：配布資料をもとに復習する 授業内容 「介護等体験」の意義 第4回 授業時間外の学習：自分にとっての意義を整理する 授業内容 特別支援教育 ①特別支援教育とは ②特別支援教育の実際 第5回 授業時間外の学習：配布資料をもとに復習する 授業内容 社会福祉施設 ①社会福祉施設の役割 ②社会福祉施設の種類 第6回 授業時間外の学習：配布資料をもとに復習する 授業内容 「介護等体験」の実際 ①特別支援学校における体験 ②社会福祉施設における体験 第7回 授業時間外の学習：授業内容をもとに復習する 授業内容 造形学生の体験と自らの課題設定 第8回 授業時間外の学習：自らの実習計画を作成する 授業内容 体験記録の記入方法と介護等体験証明書の扱い 授業時間外の学習：配布資料と講義ノートをもとに復習する
授業時間外の学習	配付資料の学習。実習計画の作成。
テキスト	特に指定しない。
参考書・参考資料等	特に指定しない。必要な場合授業時に指示する。
履修上の注意	8 回しか行われない授業である。3 回欠席すると失格（体験不許可）。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	授業内レポート 30% 介護等体験計画（期末レポート）70%
課題に対するフィードバックの方法	授業アンケート結果にコメントを入れる。
卒業認定・学位授与の方針と当該授	教職科目

講義科目名称： 教職絵画

授業コード： L176 L372

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
大杉 朋子			
科目ナンバリング：2L621C			
添付ファイル			

授業形態	演習		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	絵画制作を体験し、教育現場における絵画表現について考察する。		
授業の達成目標	絵画制作の実践に触れ、絵画を表現として扱うことができる。 様々な素材を扱い、多様な絵画表現に活かすことができる。		
授業科目の概要	教育の現場で実践されている絵画制作を体験し、絵画の構造、特性を理解する。 絵画制作を通して自分にとっての絵画表現とは何かを見つめ、教育の現場でどのように実践することができるのかを考える機会とする。		
授業計画	第1回 授業内容 オリエンテーション 第2回 授業内容 木炭デッサン制作（自画像） 第3回 授業内容 木炭デッサン制作（自画像） 第4回 授業内容 木炭デッサン講評 第5回 授業内容 静物画制作（作家研究） 第6回 授業内容 静物画制作（静物構成） 第7回 授業内容 静物画制作（下絵・スケッチ制作） 第8回 授業内容 静物画制作（油彩、アクリル、水彩による絵画作品制作） 第9回 授業内容 静物画制作（油彩、アクリル、水彩による絵画作品制作） 第10回 授業内容 静物画講評 第11回 授業内容 風景画制作（作家研究） 第12回 授業内容 風景画制作（下絵・スケッチ制作） 第13回 授業内容 風景画制作（油彩、アクリル、水彩による絵画作品制作） 第14回 授業内容 風景画制作（油彩、アクリル、水彩による絵画作品制作） 第15回 授業内容 風景画講評		
授業時間外の学習	画集などの作品資料に基づいた類例作品の研究		
テキスト	使用しない		
参考書・参考資料等	使用しない		
履修上の注意	作品制作に伴う材料、道具の準備、また制作内容に応じた資料を収集、持参すること。		
人数制限、必要スキル			
授業で使用するソフト等			
成績評価の方法・	作品評価70%、制作態度・意欲30%		

基準	
課題に対する フィードバックの 方法	講評
卒業認定・学位授 与の方針と当該授 業科目との関連	絵画制作についての基礎的な知識、教育現場での実践を踏まえた表現方法を修得する。

講義科目名称： 教職彫刻

授業コード： L180

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
下平 知明			
科目ナンバリング：2L622C			
添付ファイル			

授業形態	演習		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	彫刻制作の基礎知識を得るとともに、彫刻的な観点について考察を行う。		
授業の達成目標	彫刻史の概要と基本的な彫刻的概念を学ぶ。 平面から立体への変換を意識することで、物の構造や量感を把握する。 ソフトスカルプチャーをテーマに制作を行い立体造形の魅力を知る。 素材と技法の持つ可能性について考察し、彫刻領域の幅広い制作感を学ぶ。		
授業科目の概要	彫刻史をもとに様々な立体表現の方法と制作観を知る。 石粉粘土を用いたレリーフ制作を行う事で、量、構造、動き、表面、について学ぶ。 紙素材を用いた制作を通じ、素材や技法の意味性について考察し彫刻領域の幅広い表現を知る。 インスタレーションの領域に触れ、造形と空間表現の基本を学ぶ。		
授業計画	第1回 授業内容 ガイダンス及び彫刻史の学習。 ソフトスカルプチャーについての学習 紙素材を用いた立体造形課題『紙の塑像』についての導入 第2回 授業内容 制作①：構造についての学習 第3回 授業内容 制作②：インスタレーションの説明 立体作品と外部空間について、空間と”もの”との関係性の考察を行う。 第4回 授業内容 制作③：仕上げ 設置 撮影 画像提出 第5回 授業内容 塑像技法についての説明。レリーフ技法についての説明。道具と教材、石粉粘土の使用方法的説明を行う。 試作。 第6回 授業内容 アイデアスケッチ 及びデッサン 平面における 形態及び空間表現の学習。 第7回 授業内容 アイディアスケッチの画像提出。 プラン発表、ソフトスカルプチャー作品と合わせて講評。 第8回 授業内容 石粉粘土用いたレリーフ制作実習。 レリーフ技法の学習。粘土の基礎知識、用具についての学習。 授業時間外の学習：画集等資料取材、研究を各自行う。 第9回 授業内容 制作①：粘土づけ。道具の使い方を学ぶ。 第10回 授業内容 制作②：粘土技法についての学習を行う。 第11回 授業内容 中間講評 量と動き、形態についての学習。 第12回 授業内容 制作③：表面と内部についての考察を行う。 授業時間外の学習：画集等資料取材、研究を各自行う。 第13回 授業内容 制作④：仕上げ 着色 第14回 授業内容 仕上げ 撮影 画像提出 第15回 授業内容 講評		
授業時間外の学習	作品制作のための作家、作品研究。アイデアスケッチの制作。		
テキスト	使用しない		

参考書・参考資料等	授業時間内に使用する資料を参照の事
履修上の注意	工房を使用するため、作業にあたっては作業用服装と工房ルールを遵守する事
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	各プロセスでの目標達成率を下記の基準で評価する 授業への取り組み姿勢 50%、出席及び作品の評価50%
課題に対するフィードバックの方法	授業時の作品講評によって行う
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	理論と実習両面から造形表現の多様性を学び基礎的な造形力を身につける。

講義科目名称： 視聴覚教育メディア論

授業コード： L181

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
高橋 綾子			
科目ナンバリング：2L612S			
添付ファイル			

授業形態	講義		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	博物館情報発信におけるメディア活用		
授業の達成目標	メディアに関する学びを通して、博物館における情報の意義と活用方法および発信について理解し、それらの課題を考察するとともに、博物館情報に関する基礎的能力を養う。		
授業科目の概要	この講義では、博物館をアナログなものやデジタルな情報など様々な物事を結束させる空間と位置づけ、そのメディアとしての機能を明確に把握する。さらに近年適切な利用への要請が高まっている、デジタル技術への理解と博物館情報発信への応用や、それに伴い重大化してきた知的財産権や個人情報の取り扱いについて学ぶ。		
授業計画	第1回	授業内容 オリエンテーション 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第2回	授業内容 メディアの歴史 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第3回	授業内容 博物館の歴史 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第4回	授業内容 メディアとしての博物館 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第5回	授業内容 博物館とメディアの基礎理論 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第6回	授業内容 メディアを用いた展示 1 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第7回	授業内容 メディアを用いた展示 2 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第8回	授業内容 デジタル・アーカイブスの構築(マルチメディア・データベース) 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第9回	授業内容 情報発信とインターネット活用 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第10回	授業内容 デジタル・ミュージアム構想について 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。	
	第11回	授業内容	

	ユニバーサルデザインとアクセシビリティ 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。 第12回 授業内容 博物館における情報教育 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。 第13回 授業内容 博物館メディアリテラシー 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。 第14回 授業内容 博物館と知的財産および個人情報 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。 第15回 授業内容 まとめ 授業時間外の学習：準備学習：博物館のHP等を閲覧し、情報提供の在り方を確認しておく。 事後学習：板書したノートや配布された資料を見直し、要旨をまとめる。
授業時間外の学習	博物館を訪れ、視聴覚メディアを利用するように心がけ、その利点や課題を体験しておくこと。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	博物館・美術館を訪れ、展覧会だけでなく、施設や環境について意識して見ておくこと。特に、視聴覚メディアを実際に利用者として体験することを心がけること。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点（30％） 授業態度（10％） レポート（60％）
課題に対するフィードバックの方法	授業中のミニレポート内容に対するコメントを授業で行う。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	学芸員資格の取得の必須科目である。

講義科目名称： 福祉体験Ⅱ

授業コード： L191

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3 年次	1 単位	必修
担当教員			
大橋 基博			
科目ナンバリング：3L619C			
添付ファイル			

授業形態	実習
科目区分	資格関連科目
授業のテーマ	介護等の体験
授業の達成目標	社会福祉施設および特別支援学校での介護等体験を円滑に実施する。
授業科目の概要	特別支援学校および社会福祉施設における介護体験を通して福祉問題とその対象者への支援のあり方を学ぶ
授業計画	第1回 授業内容 特別支援学校における実習 2日間 第2回 授業時間外の学習：学校の指示に基づく 授業内容 社会福祉施設における実習 5日間 授業時間外の学習：施設の指示に基づく
授業時間外の学習	実習校、実習施設の指示による。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	授業時に指示する
履修上の注意	中学校免許取得希望者は必ず履修すること。 無断遅刻・欠席、許容できない理由による遅刻、欠席をした者の履修は取り消す。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	実習記録内容（60％）、先方職員の評価（40％）を加味して評価する。
課題に対するフィードバックの方法	3年後期の教職課程の講義時間後、コメントする。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	教職科目

講義科目名称： 教職デザイン

授業コード： L175

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
はまだ のりこ			
科目ナンバリング：2L623C			
添付ファイル			

授業形態	演習		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	社会におけるデザインの役割の考察と実習		
授業の達成目標	実制作を通して視覚伝達デザインを機能させることを学ぶことができる。 身近にあるデザインについて考え、実際に制作することによって自分たちのとりまく環境にある数々のデザインとのかかわりや、それらを制作する立場について理解することができる。 デザインの基本的な考え方を実際の授業で教えることへの意識を高めることができる。		
授業科目の概要	実制作ではデザイン表現の基本であるコンセプトの立案とその視覚化、それを社会に伝える展開としてパッケージ及び広告制作に取り組む。		
授業計画	第1回	授業内容 デザインの概要と社会における役割について	
	第2回	授業時間外の学習：日常生活におけるデザインの役割について考える 授業内容 デザイン表現の基本①色と形で伝える	
	第3回	授業時間外の学習：日常生活におけるデザインの役割について考える 授業内容 デザイン表現の基本②ブランディングコンセプト設定	
	第4回	授業時間外の学習：日常生活におけるデザインの役割について考える 授業内容 デザイン表現の基本②ブランディングコンセプト設定	
	第5回	授業時間外の学習：日常生活におけるデザインの役割について考える 授業内容 デザイン表現の基本③コンセプトのシンボル化（シンボルマークロゴ制作）	
	第6回	授業時間外の学習：シンボルマーク資料収集・調査 授業内容 デザイン表現の基本③コンセプトのシンボル化（シンボルマークロゴ制作）	
	第7回	授業時間外の学習：シンボルマーク資料収集・調査 授業内容 デザイン表現の基本③コンセプトのシンボル化（シンボルマークロゴ制作）	
	第8回	授業時間外の学習：シンボルマーク資料収集・調査 授業内容 デザインの展開①パッケージデザイン（パッケージ制作導入）	
	第9回	授業時間外の学習：パッケージ資料収集・調査 授業内容 デザインの展開①パッケージデザイン（パッケージ制作）	
	第10回	授業時間外の学習：パッケージ資料収集・調査 授業内容 デザインの展開①パッケージデザイン（パッケージ制作）	
	第11回	授業時間外の学習：パッケージ資料収集・調査 授業内容 デザインの展開②コンセプトに基づく広告制作	
	第12回	授業時間外の学習：フライヤー資料収集・調査 授業内容 デザインの展開②コンセプトに基づく広告制作	
	第13回	授業時間外の学習：フライヤー資料収集・調査 授業内容 デザインの展開②コンセプトに基づく広告制作	

	授業時間外の学習：フライヤー資料収集・調査 第14回 授業内容 デザインの展開②コンセプトに基づく広告制作 まとめとして、自分の授業カリキュラムの制作 第15回 授業時間外の学習：フライヤー資料収集・調査 授業内容 プレゼンテーション 講評
授業時間外の学習	身の回りのデザインに目を向け、課題について考察する。
テキスト	必要な資料を随時配布
参考書・参考資料等	必要な資料を随時配布
履修上の注意	デザイン制作の基礎用具を持参（筆記用具、定規、コンパス、カッター、はさみ、のり、色鉛筆、カラーサインペンなど着彩ができるもの）
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	平常点 20% 授業態度 20% 作品評価 60%
課題に対するフィードバックの方法	講評
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	グラフィックデザイン表現の基礎を学ぶことから社会におけるデザインの役割について理解し、またそれを教えることへの意識を高めるための重要な科目である。

講義科目名称： 教職工芸

授業コード： L178

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2 年次	1 単位	必修
担当教員			
森 綾			
科目ナンバリング：2L624C			
添付ファイル			

授業形態	演習		
科目区分	資格関連科目		
授業のテーマ	工芸の基本的な特性を学習し、実践を通じて指導者としての能力を身につける。		
授業の達成目標	工芸分野の一つである陶芸の実践を通じて、成形上の基本となる素材の特性を知り、道具や設備の知識を身につけ使用できるようになる。 工芸指導者として実践的な指導の力や鑑賞能力を身につけ、適切な授業構成ができるようになる。		
授業科目の概要	この授業では、成形から焼成までのプロセスを経て完成する陶芸の実践を通じて、素材の性質や技術・成形方法を理解する。 また、日常で使用する陶器をイメージし制作・鑑賞することで、身近な生活や社会と工芸の繋がりについて考える。		
授業計画	第1回	ガイダンス・陶芸の基礎知識 シラバス・課題の説明。 陶芸の歴史や産地、身の回りの陶芸品についての理解を深める。	
	第2回	素材について・土ねり 陶芸における素材である土粘土の特性を知る。成形前の下準備である土ねりを実践し、その必要性を学ぶ。	
	第3回	印花づくり 半乾燥した粘土を掘り、自身の作品を把握するための印である印花を作成する。 印は集団で制作をする際に類似のものを見分けるために必要である。	
	第4回	玉づくりレクチャー 陶芸の成形技法の中でも比較的簡単な玉作りのレクチャーを行う。	
	第5回	玉づくり実践 玉づくりの技法を用いてお茶碗を成形する。（課題1） 完成後、成形工程を振り返り記録する。	
	第6回	たたらづくりレクチャー・実践 板状に伸ばした粘土を加工して成形するたたらづくりのレクチャーを行う。 たたらづくりの技法を用いてお皿を成形する。（課題2） 完成後、成形工程を振り返り記録する。	
	第7回	たたらづくり実践 たたらづくりの技法を用いてカップを成形する。（課題3） 完成後、成形工程を振り返り記録する。	
	第8回	高台削り・加工 先に作っておいたお茶碗を半乾燥状態にし、高台を削り出す。 陶芸の削り加工における適切なタイミングと年度の状態を把握する。	
	第9回	ひもづくりレクチャー・実践 縄文土器のように粘土のひもを積み重ねて成形するひもづくりのレクチャーを行う。 ひもづくりの技法を用いて花瓶を成形する。課題（4） 完成後、成形工程を振り返り記録する。	
	第10回	自由制作 これまでの課題制作で実践した成形技法を用いて、自身の生活に取り入れたい陶器を構想し、自由に制作する。	
	第11回	絵付け・施釉 釉薬の必要性を理解し、その成分や使用方法など基本的な知識を習得した上で絵付け・施釉の実践をする。	
	第12回	焼成について・窯詰め 陶芸の重要な工程である焼成についての知識を身につける。 窯などの設備の使用方法を学ぶ。	
	第13回	窯出し・鑑賞 焼成した作品を窯出した後、鑑賞し講評会を行う。 成形から焼成までの工程を振り返り、各段階での気づきや作品の変化を記録する。	
	第14回	絵付け・施釉 一度目の焼成を踏まえて絵付け・施釉する。	
	第15回	総括・レポート 1～14回目までの授業についての総括を行い、理解度をはかるためのレポートを作成する。	

授業時間外の学習	工芸における情報を収集し、知識を深めておくこと。
テキスト	使用しない
参考書・参考資料等	使用しない
履修上の注意	・2/3以上の出席がないと単位を習得することができない。 ・30分以上の遅刻は欠席とみなす。
人数制限、必要スキル	
授業で使用するソフト等	
成績評価の方法・基準	出席・授業態度30% 最終レポート30% 制作作品40%
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で前回の質問に対する回答をする。 課題作品の講評会を行う。
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連	工芸における基礎知識を習得し、指導者としての能力を身につける。